

目次

資料 1	: DP・CP・AP の関係	p. 2
資料 2	: カリキュラムマップ (健康科学研究科)	p. 3
資料 3	: 専門領域の関係性	p. 5
資料 4	: 履修モデル	p. 6
資料 5	: 大学院時間割予定	p. 14
資料 6	: 藍野大学研究倫理部会規程	p. 15
資料 7	: 藍野大学動物実験規程	p. 17
資料 8	: 藍野大学大学院 学則案	p. 30
資料 9	: 藍野大学・藍野大学短期大学部第一看護学科・法人事務局 専任教職員就業規則. . .		p. 38
資料 10	: 藍野大学任期制教員に関する規程	p. 39
資料 11	: 健康科学研究科対象図書	p. 41
資料 12	: 藍野大学大学院健康科学研究科委員会規程 案	p. 47
資料 13	: 市民公開講座実績	p. 49

AP・CP・DPと各科目の関係性

DP：ディプロマポリシー

健康科学に関わる諸問題に対して、スポーツ科学、身体構造学、認知科学等の観点から健康増進を総合的かつ多角的に捉え、国や地域における健康寿命延伸事業の推進に寄与することを念頭においた新たな健康科学研究を自立的に行っていく教育・研究者を養成する。

DP1

健康の多様な構成要素を理解し、健康増進を総合的かつ多角的に捉える

DP 2

健康増進の視点から課題を見出し研究可能な問題を設定し、仮説を立て、結果の分析を行い、研究論文としてまとめ、実践に活かすための問題解決方法を提案することができる

DP 3

臨床現場でのリーダーシップや教育現場で学生教育を行う能力を習得できる

CP3

健康科学特別研究

認知健康科学特論演習Ⅰ

認知健康科学特論演習Ⅱ

健康科学特別研究

身体健康科学特論演習Ⅰ

身体健康科学特論演習Ⅱ

研究方法学特論

生体計測学特論

医療統計学特論

CP4

研究倫理学特論

教育方法学特論

臨床教育学特論

CP2

認知健康科学特論Ⅰ

認知健康科学特論Ⅱ

身体健康科学特論Ⅰ

身体健康科学特論Ⅱ

認知科学特論

臨床心理学特論

栄養薬理学特論

※

CP1

ヘルスプロモーション特論

保健医療福祉システム学特論

専門科目
認知健康科学領域

専門科目
身体健康科学領域

共通科目

CP:カリキュラムポリシー

健康寿命の延伸を推進するための国・地域の施策とその現状を理解するとともに、総合的・多角的に健康増進を理解したうえで、身体面と認知機能面の両面から事業における問題を科学的・分析的に捉え、国や地域での事業推進に寄与することを前提として、検証結果をもとにした新たな問題解決方法を提案できる人材。かつ、倫理的に物事にあたることができ、優れたリーダーシップのもとで後進育成にあたる教育・研究者を養成するために必要な科目を以下のように配置する。

CP1:国・地域における健康寿命延伸に対する推進事業の現状と課題を正しく理解するために、ヘルスプロモーション特論、保健医療福祉システム学特論を共通科目として配置する。

CP2:身体面と認知機能面の両面から対象者を理解し、健康増進を総合的かつ多角的に捉えた仮説生成を可能とするために、認知科学特論、臨床心理学特論、栄養薬理学特論を共通科目として配置する。また、身体健康科学特論と認知健康科学特論については、両方を受講できるように時間割を工夫する。

CP3:科学的根拠をもって現状を把握し、仮説と検証を行い、実践に役立てるために生体計測学特論、研究方法学特論、医療統計学特論を配置する。また、認知健康科学特論および演習Ⅰ・Ⅱ、身体健康科学特論および演習Ⅰ・Ⅱでは、身体面と認知機能面の健康とその増進に関わる最新知見から、適切な仮説生成と結果の検証を行うための知識・技能・態度を修得し、健康科学特別研究ではそれを実証する過程での学びを提供する。

CP4:倫理的かつ教育的観点に基づいた指導を可能とするために、研究倫理学特論、教育方法学特論、臨床教育学特論を共通科目に配置する。

AP：アドミッションポリシー

- 1) 解剖・生理・運動・栄養学、スポーツ科学、認知科学・心理学といった基盤的知識を有し、設置等の趣旨(資料)課程修了レベルに相当する論証能力を有している。
- 2) 国および地域における健康増進事業および健康寿命の延伸に関する問題意識を有している。
- 3) 科学的根拠をもとに、健康寿命延伸に関する研究領域に寄与しようとする姿勢を有している。

※卒業要件の専門教育科目8単位のうち、指導を受ける研究指導教員の領域の科目(特論・特論演習)4単位を受けることは原則だが、残りの4単位は希望すれば他の専門領域科目(特論)を受講できる

資料 2

(大学院健康科学研究科健康科学専攻)

科目区分	ナンバリング	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			カリキュラムマップ (ディプロマポリシー)		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験 実習	(1) a	(2) b	(3) c
共通科目	GH11b01	ヘルスプロモーション特論	1前	2			○			○	◎	
	GH11c01	研究倫理学特論	1前	2			○				○	◎
	GH11b02	保健医療福祉システム学特論	1後・2後		2		○			○	◎	
	GH11a01	栄養薬理学特論	1前・2前		2		○			◎		
	GH11b03	医療統計学特論	1前・2前		2		○				◎	
	GH11a02	認知科学特論	1前・2前		2		○			◎		
	GH11a03	臨床心理学特論	1後・2後		2		○			◎		
	GH11b04	生体計測学特論	1後		2		○				◎	
	GH11b05	研究方法学特論	1前・2前		2		○				◎	
	GH11c02	教育方法学特論	1前・2前		2		○				○	◎
	GH11c03	臨床教育学特論	1後・2後		2		○				○	◎
小計 (11科目)				—	8	14			—			
専門教育科目	認知健康科学領域	GH21a04	認知健康科学特論 I	1前		2		○			◎	
		GH21a05	認知健康科学特論 II	1前		2		○			◎	
		GH21b06	認知健康科学特論演習 I	1後		2			○			◎
		GH21b07	認知健康科学特論演習 II	1後		2			○			◎
	小計 (4科目)				—		8			—		
身体健康科学領域	GH22a06	身体健康科学特論 I	1前		2		○			◎		
	GH22a07	身体健康科学特論 II	1前		2		○			◎		
	GH22b08	身体健康科学特論演習 I	1後		2			○			◎	
	GH22b09	身体健康科学特論演習 II	1後		2			○			◎	
小計 (4科目)				—		8			—			
特別研究	GH23b10	健康科学特別研究	2通年	8					○			◎
	小計 (1科目)				—	8	0			—		
合計 (20科目)				—	16	30			—			

卒業要件及び履修方法

本大学院に2年以上在籍し、共通科目から14単位以上、専門教育科目から8単位以上
 (特別研究に係る領域の特論科目、及び演習科目を必ず含むこと)、特別研究8単位の計30単位
 以上を修得し修士論文の審査と公開研究発表会の審査に合格する必要がある。

○ナンバリングについて

ナンバリングは、各授業科目の体系性や学修の段階等を示した番号です。
ナンバリングの見方は以下の通りです。

【例】 GH 11 a 01
(1) (2) (3) (4)

(1)学科等略称
健康科学研究科 GH

□

(2)科目大区分
共通科目 11
専門科目(認知健康科学領域) 21
専門科目(身体健康科学領域) 22

(3)科目中区分a～c 健康科学研究科のディプロマポリシー

(4)連番01～ (3)科目中区分のグループの中での連番
例)aのグループの01、02、03・・・

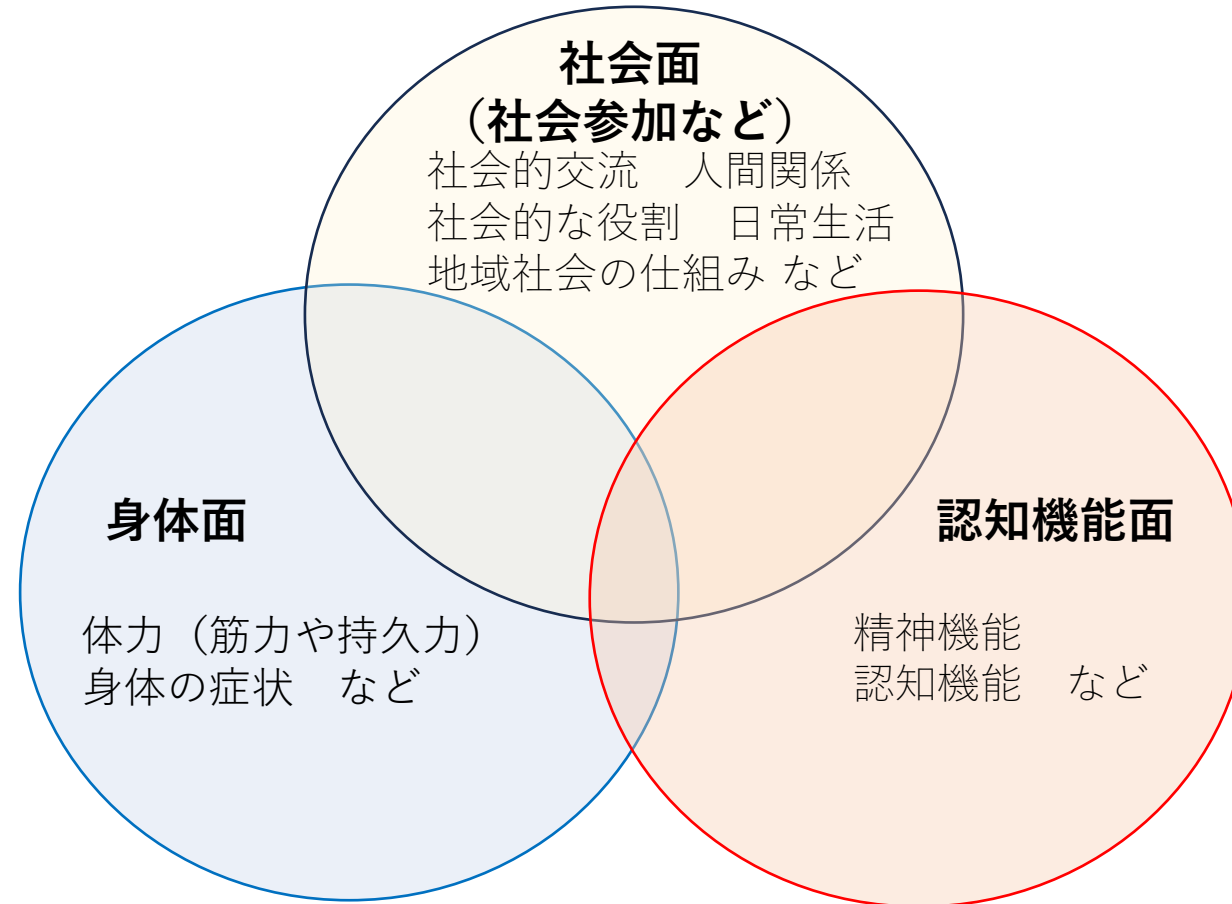
○カリキュラムマップについて

カリキュラム・マップは、各科目がディプロマ・ポリシー(修了の認定、学位授与に関する方針。)のどの項目と関連しているかを示したものです。

◎は関連が特に深いもの、○は関連が十分認められるものを表しています。

授業科目	表示数	表示ルール
1単位科目	1～2	◎は0～1つ。(◎、○、◎○、○○の4パターン)
2単位科目	1～3	◎は1つ。(◎、◎○、◎○○の3パターン)
4単位以上科目	2～4	◎は1～2つ。それ以外は表示数の範囲で自由。

健康増進に必要な3つの側面



3つの側面は互いに関連していて、1つの側面に区分できないような要素もある

履修モデル

1. 身体健康科学 I の領域で研究指導を受ける者の履修モデル例

※身体健康科学領域の研究を軸としながら、高次脳機能障害や精神疾患・障害を持つ対象者への評価や問題点の把握など（認知健康科学 I の領域）についての知識を得たい場合

◎共通科目

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
ヘルスプロモーション特論	1年前期	2	ヘルスプロモーション特論	1年前期	2
研究倫理学特論	1年前期	2	研究倫理学特論	1年前期	2
研究方法学特論	1年前期	2	医療統計学特論	1年前期	2
教育方法学特論	1年前期	2	生体計測学特論	1年後期	2
医療統計学特論	1年前期	2	研究方法学特論	2年前期	2
生体計測学特論	1年後期	2	教育方法学特論	2年前期	2
栄養薬理学特論	2年前期	2	栄養薬理学特論	2年前期	2
単位数合計	14 単位		単位数合計	14 単位	

◎共通科目（教育や実践の場において教育的な指導方法を学びたい場合）

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
ヘルスプロモーション特論	1年前期	2	ヘルスプロモーション特論	1年前期	2
研究倫理学特論	1年前期	2	研究倫理学特論	1年前期	2
研究方法学特論	1年前期	2	医療統計学特論	1年前期	2
教育方法学特論	1年前期	2	生体計測学特論	1年後期	2
医療統計学特論	1年前期	2	研究方法学特論	2年前期	2
生体計測学特論	1年後期	2	教育方法学特論	2年前期	2
臨床教育学特論	1年後期	2	臨床教育学特論	2年後期	2
単位数合計	14 単位		単位数合計	14 単位	

◎専門教育科目

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
身体健康科学特論 I	1年前期	2	身体健康科学特論 II	1年前期	2
身体健康科学特論 II	1年前期	2	認知健康科学特論 I	1年前期	2
認知健康科学特論 I	1年前期	2	身体健康科学特論 I	2年前期	2
身体健康科学特論演習 I	1年後期	2	身体健康科学特論演習 I	2年後期	2
単位数合計	8 単位		単位数合計	8 単位	

◎特別研究

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
健康科学特別研究	2年通年	8	健康科学特別研究	3年通年	8
単位数合計	8 単位		単位数合計	8 単位	

合計 30 単位

履修モデル

2. 身体健康科学Ⅰの領域で研究指導を受ける者の履修モデル例

※身体健康科学領域の研究を軸としながら、生活習慣病や精神疾患の地域社会における問題およびその対策など（認知健康科学Ⅱの領域）の知識を得たい場合

◎共通科目

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
ヘルスプロモーション特論	1年前期	2	ヘルスプロモーション特論	1年前期	2
研究倫理学特論	1年前期	2	研究倫理学特論	1年前期	2
研究方法学特論	1年前期	2	医療統計学特論	1年前期	2
教育方法学特論	1年前期	2	生体計測学特論	1年後期	2
医療統計学特論	1年前期	2	研究方法学特論	2年前期	2
生体計測学特論	1年後期	2	教育方法学特論	2年前期	2
栄養薬理学特論	2年前期	2	栄養薬理学特論	2年前期	2
単位数合計	14単位		単位数合計	14単位	

◎共通科目（教育や実践の場において教育的な指導方法を学びたい場合）

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
ヘルスプロモーション特論	1年前期	2	ヘルスプロモーション特論	1年前期	2
研究倫理学特論	1年前期	2	研究倫理学特論	1年前期	2
研究方法学特論	1年前期	2	医療統計学特論	1年前期	2
教育方法学特論	1年前期	2	生体計測学特論	1年後期	2
医療統計学特論	1年前期	2	研究方法学特論	2年前期	2
生体計測学特論	1年後期	2	教育方法学特論	2年前期	2
臨床教育学特論	1年後期	2	臨床教育学特論	2年後期	2
単位数合計	14単位		単位数合計	14単位	

◎専門教育科目

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
身体健康科学特論Ⅰ	1年前期	2	身体健康科学特論Ⅱ	1年前期	2
身体健康科学特論Ⅱ	1年前期	2	認知健康科学特論Ⅱ	1年前期	2
認知健康科学特論Ⅱ	1年前期	2	身体健康科学特論Ⅰ	2年前期	2
身体健康科学特論演習Ⅰ	1年後期	2	身体健康科学特論演習Ⅰ	2年後期	2
単位数合計	8単位		単位数合計	8単位	

◎特別研究

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
健康科学特別研究	2年通年	8	健康科学特別研究	3年通年	8
単位数合計	8単位		単位数合計	8単位	

合計 30 単位

履修モデル

3. 身体健康科学Ⅱの領域で研究指導を受ける者の履修モデル例

※身体健康科学領域の研究を軸としながら、高次脳機能障害や精神疾患・障害を持つ対象者への評価や問題点の把握など（**認知健康科学Ⅰの領域**）についての知識を得たい場合

◎共通科目

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
ヘルスプロモーション特論	1年前期	2	ヘルスプロモーション特論	1年前期	2
研究倫理学特論	1年前期	2	研究倫理学特論	1年前期	2
研究方法学特論	1年前期	2	保健医療福祉システム学特論	1年後期	2
教育方法学特論	1年前期	2	生体計測学特論	1年後期	2
生体計測学特論	1年後期	2	研究方法学特論	2年前期	2
保健医療福祉システム学特論	1年後期	2	教育方法学特論	2年前期	2
栄養薬理学特論	2年前期	2	栄養薬理学特論	2年前期	2
単位数合計	14単位		単位数合計	14単位	

◎共通科目（教育や実践の場において教育的な指導方法を学びたい場合）

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
ヘルスプロモーション特論	1年前期	2	ヘルスプロモーション特論	1年前期	2
研究倫理学特論	1年前期	2	研究倫理学特論	1年前期	2
研究方法学特論	1年前期	2	保健医療福祉システム学特論	1年後期	2
教育方法学特論	1年前期	2	生体計測学特論	1年後期	2
生体計測学特論	1年後期	2	研究方法学特論	2年前期	2
保健医療福祉システム学特論	1年後期	2	教育方法学特論	2年前期	2
臨床教育学特論	1年後期	2	臨床教育学特論	2年後期	2
単位数合計	14単位		単位数合計	14単位	

◎専門教育科目

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
身体健康科学特論Ⅰ	1年前期	2	身体健康科学特論Ⅰ	1年前期	2
身体健康科学特論Ⅱ	1年前期	2	認知健康科学特論Ⅰ	1年前期	2
認知健康科学特論Ⅰ	1年前期	2	身体健康科学特論Ⅱ	2年前期	2
身体健康科学特論演習Ⅱ	1年後期	2	身体健康科学特論演習Ⅱ	2年後期	2
単位数合計	8単位		単位数合計	8単位	

◎特別研究

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
健康科学特別研究	2年通年	8	健康科学特別研究	3年通年	8
単位数合計	8単位		単位数合計	8単位	

合計 30 単位

履修モデル

4. 身体健康科学Ⅱの領域で研究指導を受ける者の履修モデル例

※身体健康科学領域の研究を軸としながら、生活習慣病や精神疾患の地域社会における問題およびその対策など（認知健康科学Ⅱの領域）の知識を得たい場合

◎共通科目

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
ヘルスプロモーション特論	1年前期	2	ヘルスプロモーション特論	1年前期	2
研究倫理学特論	1年前期	2	研究倫理学特論	1年前期	2
研究方法学特論	1年前期	2	保健医療福祉システム学特論	1年後期	2
教育方法学特論	1年前期	2	生体計測学特論	1年後期	2
生体計測学特論	1年後期	2	研究方法学特論	2年前期	2
保健医療福祉システム学特論	1年後期	2	教育方法学特論	2年前期	2
栄養薬理学特論	2年前期	2	栄養薬理学特論	2年前期	2
単位数合計	14単位		単位数合計	14単位	

◎共通科目（教育や実践の場において教育的な指導方法を学びたい場合）

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
ヘルスプロモーション特論	1年前期	2	ヘルスプロモーション特論	1年前期	2
研究倫理学特論	1年前期	2	研究倫理学特論	1年前期	2
研究方法学特論	1年前期	2	保健医療福祉システム学特論	1年後期	2
教育方法学特論	1年前期	2	生体計測学特論	1年後期	2
生体計測学特論	1年後期	2	研究方法学特論	2年前期	2
保健医療福祉システム学特論	1年後期	2	教育方法学特論	2年前期	2
臨床教育学特論	1年後期	2	臨床教育学特論	2年後期	2
単位数合計	14単位		単位数合計	14単位	

◎専門教育科目

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
身体健康科学特論Ⅰ	1年前期	2	身体健康科学特論Ⅰ	1年前期	2
身体健康科学特論Ⅱ	1年前期	2	認知健康科学特論Ⅱ	1年前期	2
認知健康科学特論Ⅱ	1年前期	2	身体健康科学特論Ⅱ	2年前期	2
身体健康科学特論演習Ⅱ	1年後期	2	身体健康科学特論演習Ⅱ	2年後期	2
単位数合計	8単位		単位数合計	8単位	

◎特別研究

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
健康科学特別研究	2年通年	8	健康科学特別研究	3年通年	8
単位数合計	8単位		単位数合計	8単位	

合計 30 単位

履修モデル

5. 認知健康科学Ⅰの領域で研究指導を受ける者の履修モデル例

※認知健康科学領域の研究を軸としながら、廃用予防や生活習慣病の予防に必要なスポーツ科学の理論（**身体健康科学Ⅰの領域**）の知識を得たい場合

◎共通科目

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
ヘルスプロモーション特論	1年前期	2	ヘルスプロモーション特論	1年前期	2
研究倫理学特論	1年前期	2	研究倫理学特論	1年前期	2
研究方法学特論	1年前期	2	保健医療福祉システム学特論	1年後期	2
教育方法学特論	1年前期	2	教育方法学特論	2年前期	2
認知科学特論	1年前期	2	研究方法学特論	2年前期	2
保健医療福祉システム学特論	1年後期	2	認知科学特論	2年前期	2
臨床心理学特論	1年後期	2	臨床心理学特論	2年後期	2
単位数合計	14単位		単位数合計	14単位	

◎共通科目（教育や実践の場において教育的な指導方法を学びたい場合）

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
ヘルスプロモーション特論	1年前期	2	ヘルスプロモーション特論	1年前期	2
研究倫理学特論	1年前期	2	研究倫理学特論	1年前期	2
研究方法学特論	1年前期	2	保健医療福祉システム学特論	1年後期	2
教育方法学特論	1年前期	2	教育方法学特論	2年前期	2
認知科学特論	1年前期	2	研究方法学特論	2年前期	2
保健医療福祉システム学特論	1年後期	2	認知科学特論	2年前期	2
臨床教育学特論	1年後期	2	臨床教育学特論	2年後期	2
単位数合計	14単位		単位数合計	14単位	

◎専門教育科目

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
認知健康科学特論Ⅰ	1年前期	2	認知健康科学特論Ⅱ	1年前期	2
認知健康科学特論Ⅱ	1年前期	2	身体健康科学特論Ⅰ	1年前期	2
身体健康科学特論Ⅰ	1年前期	2	認知健康科学特論Ⅰ	2年前期	2
認知健康科学特論演習Ⅰ	1年後期	2	認知健康科学特論演習Ⅰ	2年後期	2
単位数合計	8単位		単位数合計	8単位	

◎特別研究

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
健康科学特別研究	2年通年	8	健康科学特別研究	3年通年	8
単位数合計	8単位		単位数合計	8単位	

合計 30 単位

履修モデル

6. 認知健康科学Ⅰの領域で研究指導を受ける者の履修モデル例

※認知健康科学領域の研究を軸としながら、呼吸・代謝障害、生活習慣病の予防やそれらに併存する運動器障害を有する者の身体活動など（**身体健康科学Ⅱの領域**）の知識を得たい場合

◎共通科目

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
ヘルスプロモーション特論	1年前期	2	ヘルスプロモーション特論	1年前期	2
研究倫理学特論	1年前期	2	研究倫理学特論	1年前期	2
研究方法学特論	1年前期	2	保健医療福祉システム学特論	1年後期	2
教育方法学特論	1年前期	2	教育方法学特論	2年前期	2
認知科学特論	1年前期	2	研究方法学特論	2年前期	2
保健医療福祉システム学特論	1年後期	2	認知科学特論	2年前期	2
臨床心理学特論	1年後期	2	臨床心理学特論	2年後期	2
単位数合計	14単位		単位数合計	14単位	

◎共通科目（教育や実践の場において教育的な指導方法を学びたい場合）

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
ヘルスプロモーション特論	1年前期	2	ヘルスプロモーション特論	1年前期	2
研究倫理学特論	1年前期	2	研究倫理学特論	1年前期	2
研究方法学特論	1年前期	2	保健医療福祉システム学特論	1年後期	2
教育方法学特論	1年前期	2	教育方法学特論	2年前期	2
認知科学特論	1年前期	2	研究方法学特論	2年前期	2
保健医療福祉システム学特論	1年後期	2	認知科学特論	2年前期	2
臨床教育学特論	1年後期	2	臨床教育学特論	2年後期	2
単位数合計	14単位		単位数合計	14単位	

◎専門教育科目

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
認知健康科学特論Ⅰ	1年前期	2	認知健康科学特論Ⅱ	1年前期	2
認知健康科学特論Ⅱ	1年前期	2	身体健康科学特論Ⅱ	1年前期	2
身体健康科学特論Ⅱ	1年前期	2	認知健康科学特論Ⅰ	2年前期	2
認知健康科学特論演習Ⅰ	1年後期	2	認知健康科学特論演習Ⅰ	2年後期	2
単位数合計	8単位		単位数合計	8単位	

◎特別研究

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
健康科学特別研究	2年通年	8	健康科学特別研究	3年通年	8
単位数合計	8単位		単位数合計	8単位	

合計 30 単位

履修モデル

7. 認知健康科学Ⅱの領域で研究指導を受ける者の履修モデル例

※認知健康科学領域の研究を軸としながら、廃用予防や生活習慣病の予防に必要なスポーツ科学の理論（**身体健康科学Ⅰの領域**）の知識を得たい場合

◎共通科目

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
ヘルスプロモーション特論	1年前期	2	ヘルスプロモーション特論	1年前期	2
研究倫理学特論	1年前期	2	研究倫理学特論	1年前期	2
研究方法学特論	1年前期	2	保健医療福祉システム学特論	1年後期	2
教育方法学特論	1年前期	2	教育方法学特論	2年前期	2
医療統計学特論	1年前期	2	研究方法学特論	2年前期	2
保健医療福祉システム学特論	1年後期	2	医療統計学特論	2年前期	2
臨床心理学特論	1年後期	2	臨床心理学特論	2年後期	2
単位数合計	14単位		単位数合計	14単位	

◎共通科目（教育や実践の場において教育的な指導方法を学びたい場合）

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
ヘルスプロモーション特論	1年前期	2	ヘルスプロモーション特論	1年前期	2
研究倫理学特論	1年前期	2	研究倫理学特論	1年前期	2
研究方法学特論	1年前期	2	保健医療福祉システム学特論	1年後期	2
教育方法学特論	1年前期	2	教育方法学特論	2年前期	2
臨床心理学特論	1年後期	2	研究方法学特論	2年前期	2
保健医療福祉システム学特論	1年後期	2	臨床心理学特論	2年後期	2
臨床教育学特論	1年後期	2	臨床教育学特論	2年後期	2
単位数合計	14単位		単位数合計	14単位	

◎専門教育科目

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
認知健康科学特論Ⅰ	1年前期	2	認知健康科学特論Ⅰ	1年前期	2
認知健康科学特論Ⅱ	1年前期	2	身体健康科学特論Ⅰ	1年前期	2
身体健康科学特論Ⅰ	1年前期	2	認知健康科学特論Ⅱ	2年前期	2
認知健康科学特論演習Ⅱ	1年後期	2	認知健康科学特論演習Ⅱ	2年後期	2
単位数合計	8単位		単位数合計	8単位	

◎特別研究

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
健康科学特別研究	2年通年	8	健康科学特別研究	3年通年	8
単位数合計	8単位		単位数合計	8単位	

合計 30 単位

履修モデル

8. 認知健康科学Ⅱの領域で研究指導を受ける者の履修モデル例

※認知健康科学領域の研究を軸としながら、呼吸・代謝障害、生活習慣病の予防やそれらに併存する運動器障害を有する者の身体活動など（**身体健康科学Ⅱの領域**）の知識を得たい場合

◎共通科目

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
ヘルスプロモーション特論	1年前期	2	ヘルスプロモーション特論	1年前期	2
研究倫理学特論	1年前期	2	研究倫理学特論	1年前期	2
研究方法学特論	1年前期	2	保健医療福祉システム学特論	1年後期	2
教育方法学特論	1年前期	2	教育方法学特論	2年前期	2
医療統計学特論	1年前期	2	研究方法学特論	2年前期	2
保健医療福祉システム学特論	1年後期	2	医療統計学特論	2年前期	2
臨床心理学特論	1年後期	2	臨床心理学特論	2年後期	2
単位数合計	14単位		単位数合計	14単位	

◎共通科目（教育や実践の場において教育的な指導方法を学びたい場合）

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
ヘルスプロモーション特論	1年前期	2	ヘルスプロモーション特論	1年前期	2
研究倫理学特論	1年前期	2	研究倫理学特論	1年前期	2
研究方法学特論	1年前期	2	保健医療福祉システム学特論	1年後期	2
教育方法学特論	1年前期	2	教育方法学特論	2年前期	2
臨床心理学特論	1年後期	2	研究方法学特論	2年前期	2
保健医療福祉システム学特論	1年後期	2	臨床心理学特論	2年後期	2
臨床教育学特論	1年後期	2	臨床教育学特論	2年後期	2
単位数合計	14単位		単位数合計	14単位	

◎専門教育科目

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
認知健康科学特論Ⅰ	1年前期	2	認知健康科学特論Ⅰ	1年前期	2
認知健康科学特論Ⅱ	1年前期	2	身体健康科学特論Ⅱ	1年前期	2
身体健康科学特論Ⅱ	1年前期	2	認知健康科学特論Ⅱ	2年前期	2
認知健康科学特論演習Ⅱ	1年後期	2	認知健康科学特論演習Ⅱ	2年後期	2
単位数合計	8単位		単位数合計	8単位	

◎特別研究

2年で履修する場合			3年で履修する場合		
科目名称	履修年次	単位数	科目名称	履修年次	単位数
健康科学特別研究	2年通年	8	健康科学特別研究	3年通年	8
単位数合計	8単位		単位数合計	8単位	

合計 30 単位

資料 5

時間割（予定）（赤字は2年次での履修も可）

学年	時限	時間	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1年	6	18:00~19:30	栄養薬理学特論	生体計測学特論	研究方法学特論	臨床心理学特論	認知健康科学特論Ⅰ	認知健康科学特論演習Ⅰ	身体健康科学特論Ⅰ	身体健康科学特論演習Ⅰ	医療統計学特論		認知科学特論	
	7	19:40~21:10	ヘルスプロモーション特論		研究倫理学特論		認知健康科学特論Ⅱ	認知健康科学特論演習Ⅱ	身体健康科学特論Ⅱ	身体健康科学特論演習Ⅱ	教育方法学特論	臨床教育学特論	保健医療福祉システム論	
2年	6	18:00~19:30	特別研究											
	7	19:40~21:10												

科目担当と教室（予定）

		月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1年	6限	科目	栄養薬理学特論	生体計測学特論	研究方法学特論	臨床心理学特論	認知健康科学特論Ⅰ	認知健康科学特論演習Ⅰ	身体健康科学特論Ⅰ	身体健康科学特論演習Ⅰ	医療統計学特論		認知科学特論	
		担当教員	兼清 健志	稲盛修二, 大和洋輔, 山科吉弘	安藤卓, 岩村真樹	足利学	酒井浩, 五十嵐朗, 塚越千尋	酒井浩, 五十嵐朗, 林拓世, 塚越千尋	後藤昌弘, 寺田茂	後藤昌弘, 寺田茂, 青山宏樹	五十嵐朗		酒井浩, 真下いずみ	
		教室	D棟3階大学院講義室	A棟203教室	D棟3階大学院講義室	D棟3階大学院講義室	A棟001教室	A棟001教室 A棟203教室 各研究室	A棟203教室	E棟（トレーニングルーム） A203教室 各研究室	D棟3階大学院講義室		A棟001教室	
	7限	科目	ヘルスプロモーション特論		研究倫理学特論		認知健康科学特論Ⅱ	認知健康科学特論演習Ⅱ	身体健康科学特論Ⅱ	身体健康科学特論演習Ⅱ	教育方法学特論	臨床教育学特論	保健医療福祉システム論	
		担当教員	寺田茂, 安藤卓, 酒井浩, 後藤昌弘, 山科吉弘, 真下いずみ		寺田茂		安藤卓, 岩村真樹, 真下いずみ	安藤卓, 岩村真樹, 真下いずみ	栗原秀剛, 稲盛修二, 森田恵美子, 山科吉弘	栗原秀剛, 稲盛修二, 森田恵美子, 山科吉弘, 大和洋輔	杉山芳生	平山朋子	小田泰宏	
		教室	D棟3階大学院講義室		D棟3階大学院講義室		A棟001教室	A棟203教室 各研究室	A棟203教室	D棟中央研究施設 実験室 A203教室 各研究室	D棟3階大学院講義室	D棟3階大学院講義室	D棟3階大学院講義室	

藍野大学 研究倫理部会規程

〔 2004年4月1日
制 定 〕

(設置)

第1条 藍野大学教育・研究推進委員会規程第6条第1項に基づき、研究者（教員）が行うヒトを対象とする研究、調査、教育その他の活動（以下「研究等」という。）について、研究等の対象となる者及びその家族等の関係者（以下「研究対象者等」という。）の人権の擁護並びに当該研究対象者等に対する肉体的、心理的及び社会的配慮の確保等に関する基本的事項を協議するため、研究倫理部会（以下「部会」という。）を設置し、同条第2項の規定に基づき、部会に必要な事項を定めるものとする。

(理念)

第2条 研究等は、関係法令を遵守し、かつ、「世界医師会ヘルシンキ宣言」、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の趣旨を尊重して行わなければならない。

(構成)

第3条 部会は、次に掲げる職員をもって構成するものとする。

- (1) 各学科から選出された者 各1名
- (2) 倫理、社会、法律に関し、専門知識を有する学内外の学識経験者 若干名
- (3) 学生支援グループ 1名
- (4) その他部会長が必要と認めた者

2 部会に部会長を置き、学部長が指名する者をもって充てる。

(任期)

第3条 前条各号部員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げないものとする。

2 部員に欠員が生じた場合、補充される部員の任期は前任者の残任期間とする。

3 部員は、任期が満了した場合においても新たに部員が選出されるまで第1項の規定にかかわらず引き続きその職務を行うものとする。

(協議事項)

第4条 部会は、次の事項について協議し、教育・研究推進委員会に上程のうえ、議決するものとする。

- (1) 研究等の審査に関すること。
- (2) その他研究倫理に関すること。

2 研究倫理審査申請に関し、必要な事項は、別に定める。

(議事)

第5条 部会長は、部会を招集し、その議長となる。

2 部会は、部員の2分の1以上の出席をもって成立することとし、議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は部会長の決するところによる。

3 部会長が必要と認めたときは、部員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第6条 部会に関する事務は、学生支援グループにおいて処理する。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、運営会議の議を経て学長が行う。

附 則

- 1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この規程により選出される最初の委員の任期は、第4条第2項の規程にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成20年5月8日から施行し、平成20年4月1日より適用する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年9月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年1月15日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年5月11日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年5月9日から施行する。

附 則

この規程は、2020年3月16日から施行する。

附 則

この規程は、2021年6月30日から施行する。

附 則

この規程は、2021年8月25日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、2022年4月1日から施行する。
- 2 藍野大学研究倫理規程（平成16年4月1日制定）は、廃止する。

藍野大学 動物実験規程

〔2016年4月1日制定〕

最近改定 2022年10月12日

大学等における動物実験を伴う生命科学研究は、人の健康・福祉・先端医療の開発展開のみならず、動物の健康増進等における研究分野の進展においても必要な手段である。

本規程は、「動物愛護及び管理に関する法律」（以下「法」という）、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する法律」（以下飼養保管基準）という）、及び文部科学省が策定した「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」（以下「基本指針」という）を踏まえ、日本学術会議が作成した「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン」（以下「ガイドライン」という）を参考に、科学的観点、動物愛護の観点及び環境保全の観点並びに動物実験等を行う教職員・学生等の安全確保の観点から、動物実験等の実施方法を定めるものである。

（趣旨及び基本原則）

第1条 この規程は、藍野大学における動物実験等を適正に行うため、動物実験部会の設置、動物実験計画の承認手続き等必要な事項を定めるものとする。

- 2 動物実験等については、法、飼養保管基準、基本指針、環境省告示の「動物の殺処分方法に関する指針」、その他の法令等に定めがあるもののほか、この規程の定めるところによる。
- 3 動物実験等の実施に当たっては、法及び飼養保管基準に即し、動物実験等の原則である代替法の利用（科学上の利用の目的を達することができる範囲において、できる限り動物を供する方法に代わり得るものを利用することをいう。）、使用数の削減（科学上の利用の目的を達することができる範囲において、できる限りその利用に供される動物の数を少なくすること等により実験動物を適切に利用することに配慮することをいう。）及び苦痛の軽減（科学上の利用に必要な限度において、できる限り動物に苦痛を与えない方法によってしなければならないことをいう。）の3R（Replacement、Reduction、Refinement）に基づき、適正に実施しなければならない。

（定義）

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- （1）動物実験等 本条第5号に規定する動物実験を教育、試験研究又は生物学的製剤の製造の用その他の科学上の利用に供することをいう。
- （2）飼養保管施設 実験動物を恒常的に飼養若しくは保管又は動物実験等を行う施設・設備をいう。
- （3）実験室 実験動物に実験操作（原則48時間以内の一時的保管を含む）を行う動物実験室をいう。
- （4）施設等 飼養保管施設及び実験室をいう。
- （5）実験動物 動物実験等の利用に供するため、施設等で飼養または保管している哺乳類、鳥類又は爬虫類に属する動物（施設等に導入するために輸送中のものを含む）をいう。
- （6）動物実験計画 動物実験等の実施に関する計画をいう。
- （7）動物実験実施者 動物実験等を実施する者をいう。
- （8）動物実験責任者 動物実験実施者のうち、動物実験等の実施に関する業務を統括する者をいう。
- （9）管理者（中央研究施設長） 学長の命を受け、実験動物及び施設等を管理する者をいう。
- （10）実験動物管理者 実験動物に関する知識及び経験を有し、管理者を補佐して実験動物の管

理を担当する者をいう。

(11) 飼養者 実験動物管理者又は動物実験実施者の下で実験動物の飼養又は保管に従事する者をいう。

(12) 管理者等 学長、管理者、実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者をいう。

(13) 指針等 動物実験等に関して行政機関の定める基本指針及びガイドラインをいう。

(適用範囲)

第3条 この規程は、本学において実施される哺乳類、鳥類、爬虫類の生体を用いる全ての動物実験等に適用される。

2 動物実験責任者は、動物実験等の実施を本学以外の機関に委託等する場合、委託先においても、基本指針又は他省庁の定める動物実験等に関する基本指針に基づき、動物実験等が実施されることを確認すること。

(学長の責務)

第4条 学長は、本学における動物実験等の実施並びに実験動物の飼養及び保管に関する最終的な責任を有し、次の各号に掲げる責務を負う。

(1) 飼養保管施設の整備。

(2) 動物実験計画の承認及び実施状況並びに結果の把握。

(3) 前号の結果に基づく改善措置。

(4) 飼養保管施設及び実験室の承認。

(5) 動物実験等に係る安全管理。

(6) 教育訓練の実施。

(7) 自己点検・評価及び情報公開等の実施。

(8) その他、動物実験等の適正な実施のために必要な措置。

2 学長は、動物実験計画の承認、実施状況及び結果の把握、飼養保管施設及び実験室の承認、教育訓練、自己点検、評価、情報公開、その他動物実験等の適正な実施に関して報告又は助言を行う組織として、動物実験部会（以下「部会」という。）を置く。

(部会の役割)

第5条 部会は、学長の委嘱を受け、次の事項を審議又は調査し、学長に報告又は助言する。

(1) 動物実験計画が指針等及び本規程に適合していることの審議。

(2) 動物実験計画の実施状況及び結果に関すること。

(3) 施設等の設置及び実験動物の飼養保管状況に関すること。

(4) 動物実験及び実験動物の適正な取扱い並びに関係法令等に関する教育訓練の内容又は体制に関すること。

(5) 自己点検・評価、外部検証に関すること。

(6) その他、動物実験等の適正な実施のための必要事項に関すること。

(構成)

第6条 部会は、次に掲げる職員をもって構成するものとする。

(1) 中央研究施設長

(2) 動物実験等に関して優れた識見を有する者 若干名

(3) 実験動物に関して優れた識見を有する者 若干名

(4) その他学識経験者を有する者 若干名

2 部会に部会長を置き、中央研究施設長をもって充てる。

3 部会は、部会を主宰する。

(任期)

第7条 前条第1項第2号及び第3号並びに第4号委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げないものとする。

2 委員に欠員が生じた場合、補充される委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、任期が満了した場合においても新たに委員が選出されるまで第1項の規定にかかわらず引き続きその職務を行うものとする。

(動物実験計画の立案、審査、手続き)

第8条 動物実験実施者は、動物実験等により取得されるデータの信頼性を確保する観点から、次に掲げる事項を踏まえて動物実験計画を立案し、所定の動物実験計画書(様式1)を学長に提出すること。

(1) 研究の目的、意義及び必要性

(2) 代替法を考慮して、動物実験を適切に利用すること。

(3) 実験動物の使用数削減のため、動物実験等の目的に適した実験動物の選定、動物実験成績の精度と再現性を左右する実験動物の数、遺伝学的及び微生物学的品質並びに飼養条件を考慮すること。

(4) 苦痛の軽減により動物実験等を行うこと。

(5) 苦痛の軽減により動物実験等(例えば、致死的な毒性試験、感染実験、放射線照射実験等)を行う場合は、動物実験等を計画する段階で人道的エンドポイント(実験動物を激しい苦痛から解放するため、実験を打ち切るタイミング)の設定を検討すること。

2 学長は、動物実験実施者から動物実験計画書の提出を受けたときは、部会の審査を経て、承認又は非承認を決定し、その結果を当該動物実験実施者に通知すること。

3 動物実験実施者は、動物実験計画について学長の承認を得た後でなければ、実験を行うことができない。

(実験操作)

第9条 動物実験実施者は、動物実験等の実施に当たって、法、飼養保管基準、指針等に即するとともに、特に次に掲げる各号を遵守すること。

(1) 適切に維持管理された施設等において動物実験等を行うこと。

(2) 動物実験計画書に記載された事項及び以下の事項を遵守すること。

①適切な麻酔薬、鎮痛薬等の利用。

②動物実験の終了の時期(人道的エンドポイントを含む)の配慮。

③適切な術後管理。

④適切な安楽死の選択。

(3) 安全管理に注意を払うべき実験(物理的、化学的に危険な材料、病原体、遺伝子組換え動物等を用いる実験)については、関係法令等及び本学における関連する規程等に従うこと。

(4) 物理的、化学的に危険な材料又は病原体等を扱う動物実験等について、安全のための適切な施設や設備を確保すること。

(5) 実験実施に先立ち必要な実験手技等の習得に努めること。

(6) 侵襲性の高い大規模な存命手術に当たっては、経験等を有する者の指導下で行うこと。

(実験結果の報告)

第10条 動物実験実施者は、動物実験計画を実施した後、所定の様式により、使用動物数、計画からの変更の有無、成果等について学長に報告しなければならない。

- 2 学長は、動物実験計画実施の結果について、必要に応じ部会の助言を受け、適正な動物実験等の実施のための改善処理を講ずること。

(飼育保管施設の設置)

- 第 11 条** 飼育保管施設を設置（変更を含む）する場合は、「飼養保管施設設置承認申請書」（様式 2）を提出し、学長の承認を得るものとする。
- 2 学長の承認を得た飼養保管施設でなければ、当該飼養保管施設での飼養若しくは保管又は動物実験等を行うことができない。
 - 3 学長は、申請された飼養保管施設を部会に調査させ、その助言により、承認を決定すること。

(飼養保管施設の要件)

- 第 12 条** 飼養保管施設は、以下の要件を満たすこと。
- (1) 適切な温度、湿度、換気、明るさ等を保つことができる構造等とすること。
 - (2) 動物種や飼養保管数等に応じた飼育設備を有すること。
 - (3) 床や内壁などが清掃、消毒等が容易な構造で、器材の洗浄や消毒等を行う衛生設備を有すること。
 - (4) 動物実験が逸走しない構造及び強度を有すること。
 - (5) 臭気、騒音、廃棄物等による周辺環境への悪影響を防止する措置がとられていること。
 - (6) 実験動物管理者がおかれていること。

(実験室の設置)

- 第 13 条** 飼養保管施設以外において、実験室を設置（変更を含む）する場合は、「実験室設置承認申請書」（様式 3）を提出し、学長の承認を得るものとする。
- 2 学長は、申請された実験室を部会に調査させ、その助言により、承認を決定すること。
 - 3 実験室の管理者は、学長の承認を得た実験室でなければ、当該実験室での実験動物への実験操作（原則 48 時間以内の一時的保管を含む）を行うことができない。

(実験室の要件)

- 第 14 条** 実験室は、以下の要件を満たすこと。
- (1) 実験動物が逸走しない構造及び強度を有し、実験動物が室内で逸走しても捕獲しやすい環境が維持されていること。
 - (2) 排泄物や血液等による汚染に対して清掃や消毒が容易な構造であること。
 - (3) 常に清潔な状態を保ち、臭気、騒音、廃棄物等による周辺環境への悪影響を防止する措置がとられていること。

(施設等の維持管理及び改善)

- 第 15 条** 管理者は、実験動物の適正な管理、動物実験等の遂行に必要な施設等の維持管理及び改善に努めること。

(施設等の廃止)

- 第 16 条** 設置等を廃止する場合は、所定の「施設等廃止届」を学長に届出ること。
- 2 学長は、廃止届が出された施設等を部会に調査させ、その報告により廃止を承認すること。
 - 3 管理者は、必要に応じて、動物実験責任者と協力し、飼養保管中の実験動物を他の飼養保管施設に譲り渡すよう努めること。

(施設等の維持管理及び改善)

第 17 条 管理者は、実験動物の適正な管理並びに動物実験等の遂行に必要な施設等の維持管理及び改善に努めること。

(マニュアル【標準操作手順】の作成と周知)

第 18 条 管理者及び実験動物管理者は、飼養保管のマニュアルを定め、動物実験実施者及び飼養者に周知すること。

(実験動物の健康及び安全の保持)

第 19 条 実験動物管理者、動物実験実施者、飼養者は、飼養保管基準を遵守し、実験動物の健康及び安全の保持に努めること。

(実験動物の導入)

第 20 条 管理者は、実験動物の購入に当たり、関連法令や指針等に基づき適正に管理されている機関より導入すること。

2 実験動物管理者は、実験動物の導入に当たり、適切な検疫、隔離飼育等を行うこと。

3 実験動物管理者は、実験動物の飼育環境への順化・順応を図るための必要な措置を講じること。

(飼養及び保管の方法)

第 21 条 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者は、実験動物の生理、生態、習性等に応じて、適切に給餌及び給水、必要な健康の管理並びにその動物の種類、習性等を考慮した飼養又は保管を行うための環境の確保を行うこと。

(健康管理)

第 22 条 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者は、実験目的以外の傷害や疾病を予防するため、実験動物に必要な健康管理を行うこと。

2 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者は、実験目的以外の傷害や疾病にかかった場合、実験動物に適切な治療等を行うこと。

(異種又は複数動物の飼育)

第 23 条 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者は、異種又は複数の実験動物を同一施設内で飼養、保管する場合、その組み合わせを考慮した収容を行うこと。

(記録の保存及び報告)

第 24 条 管理者等は、実験動物の入手先、飼育履歴、病歴等に関する記録を整備、保存すること。

2 管理者等は、人に危害を加える等のおそれのある実験動物については、名札、脚環、マイクロチップ等の装着等の識別装置に可能な範囲で講じるよう努めること。

3 管理者は、年度ごとに飼養保管した実験動物の種類と数等について、学長に報告すること。

(譲渡等の際の情報提供)

第 25 条 管理者等は、実験動物の譲渡に当たり、その特性、飼養保管の方法、感染性疾病等に関する情報を提供すること。

(輸送)

第 26 条 管理者等は、実験動物の輸送に当たり、飼養保管基準を遵守し、実験動物の健康及び安全の確保、人への危害防止に努めること。

(危害防止)

第 27 条 管理者は、逸走した実験動物の捕獲の方法等をあらかじめ定めること。

- 2 管理者は、人に危害を加える等の恐れのある実験動物が施設等外に逸走した場合には、速やかに関係機関に連絡すること。
- 3 管理者は、実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者が、実験動物由来の感染症にかかること及び実験動物による咬傷等に対して、予防及び発生時の必要な措置を講じること。
- 4 管理者は、毒へび等の有毒動物の飼養又は保管をする場合は、人への危害の発生の防止のため、飼養保管基準に基づき必要な事項を別途定めること。
- 5 管理者は、実験動物の飼養や動物実験等の実施に関係のない者が実験動物等に接触しないよう、必要な措置を講じること。

(緊急時の対応)

第 28 条 管理者は、地震、火災等の緊急時に執るべき措置の計画をあらかじめ作成し、関係者に対して周知を図ること。

- 2 管理者は、緊急事態発生時において、実験動物の保護、実験動物の逸走による危害防止に努めること。

(教育訓練)

第 29 条 学長は、実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者に、以下の事項に関する所定の教育訓練を受講させること。

- (1) 関連法令、指針等、本学の定める規程等。
 - (2) 動物実験等の方法に関する基本的事項。
 - (3) 実験動物の飼養保管に関する基本的事項。
 - (4) 安全確保、安全管理に関する事項。
 - (5) その他、適切な動物実験等の実施に関する事項。
- 2 教育訓練の実施日、教育内容、講師及び受講者名の記録を保管すること。
 - 3 教育訓練を受講しない者は、動物実験を行うことができないものとする。

(自己点検・評価)

第 30 条 学長は、部会に毎年、基本指針への適合性並びに飼養保管基準の遵守状況に関し、自己点検・評価を行わせること。

- 2 部会は、動物実験等の実施状況等や飼養保管状況に関する自己点検・評価を行い、その結果を学長に報告しなければならない。
- 3 部会は、管理者、動物実験実施者、動物実験責任者、実験動物管理者並びに飼養者等に、自己点検・評価のための資料を提出させることができる。
- 4 学長は、自己点検・評価の結果について、可能な限り、外部の機関等による検証を実施することに努めること。

(情報公開)

第 31 条 学長は、本学における、動物実験等に関する情報（動物実験等に関する規程、実験動物の飼養保管状況、自己点検・評価、検証の結果、その他関係の動物実験に関する協議会が要請する項目等）、飼養保管基準の遵守状況を毎年 1 回程度公表する。

(罰則)

第 32 条 学長は、本規程、藍野大学中央研究施設細則等に違反した者の動物実験等を直ちに中止させ、一定期間動物実験等の実施を禁ずることができる。

2 罰則の適用に関して、学長は部会の助言を求めることができる。

(準用)

第 33 条 第 2 条第 5 号に定める実験動物以外の動物を使用する動物実験等については、飼養保管基準の趣旨に沿って行うよう努めること。

(準拠)

第 34 条 本学における動物実験等の適正な実施並びに実験動物の適正な飼育及び保管に関する具体的な方法は、ガイドラインに準拠するものとする。

(適用除外)

第 35 条 本規程は、産業等の利用に供するために、実験動物（一般に、産業動物とみなされる動物種に限る）を飼養し、又は保管をする管理者等及び生態の観察を行うことを目的として実験動物の飼養又は保管をする管理者等には適用しない。ただし、大学等における研究、教育及び実習に供する動物は、原則、実験動物であって、これらの管理者等には本基準が適用される。また、畜産分野における試験研究であっても、血液の採取、人工繁殖や外科的な処置（家畜改良増殖法に基づくものを除く）を行う管理者等には本基準が適用される。産業等の利用に供するために、飼養し、又は保管している動物については、「産業動物の飼養及び保管に関する基準（昭和 62 年総理府告示第 22 号）」、生態の観察を行うことを目的とする動物の飼養及び保管については、「家庭動物等の飼養及び保管に関する基準（平成 14 年環境省告示第 37 号）」に準じて行うこと。

産業動物であっても外科的措置を施して研究を行う場合や薬理学実験による研究を行う場合などは本規程の適用を受ける。また、解剖学、生理学、病理学の基礎科学から、応用獣医学、臨床獣医学等の教育、実習に供する場合にも本規程の適用を受ける。

(雑則)

第 36 条 この規程の定めるもののほか、必要な事項は、藍野大学中央研究施設使用細則に準ずる。

(事務)

第 37 条 部会に関する事務は、学生支援グループにおいて処理する。

(改廃)

第 38 条 この規程の改廃は、動物実験部会で審議し、教育・研究推進委員会の議を経て運営会議で決定する。

附 則

- 1 この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 藍野大学動物実験委員会規程、藍野大学動物実験施設管理及び利用規程、藍野大学動物実験施設管理及び利用規程細則は、廃止する。

附 則

この規程は、2020 年 3 月 16 日から施行する。

附 則

この規程は、2020 年 8 月 26 日から施行する。

附 則

この規程は、2021 年 10 月 27 日から施行する。

(別紙)

実 験 概 要 (プロトコール)

(実験方法)

(研究経過)※更新申請のみ記入すること

飼養保管施設設置承認申請書

藍野大学長 殿

申請部局長 部局名
部局長氏名

藍野大学動物実験規程第11条の規定に基づき、下記の飼養保管施設設置の承認について申請します。

申請年月日 年 月 日 受付年月日 年 月 日 受付番号:

1. 飼養保管施設 (施設) の名称	
2. 施設の管理体制	<管理者> 所属 職名 氏名 連絡先
	<実験動物管理者> 所属 職名 氏名 連絡先 関連資格： 経験年数：
	<飼養者> (人数が多い場合、別資料として添付) 所属 職名 氏名 連絡先 関連資格： 経験年数：
3. 施設の概要	1) 建物の構造： (例：鉄筋コンクリート造) 2) 空調設備： (例：温湿度制御、換気回数等) 3) 飼養保管する実験動物種： 4) 飼養保管設備 (飼育ケージ等) 規格： 最大収容数：

	<p>5) 逸走防止策 (ケージの施錠、前室の有無、窓や排水口の封鎖など)</p> <p>6) 衛生設備 (洗浄・消毒・滅菌等の設備) 名称：・ 規格：</p> <p>7) 臭気、騒音、廃棄物等による周辺への悪影響防止策</p>
<p>4. 特記事項 (例: 化学的危険物質や病原体等を扱う場合等の設備構造の有無等)</p>	
<p>5. 部会記入欄</p>	<p>調査月日： 年 月 日</p> <p>調査結果： <input type="checkbox"/> 申請された飼養保管施設は規程に適合する。 (条件等 <input type="checkbox"/> 改善後、使用開始すること。) <input type="checkbox"/> 申請された飼養保管施設は規程に適合しない。</p> <p>意見等</p>
<p>6. 学長承認欄</p>	<p>承認： 年 月 日</p> <p>本申請を承認します。 承認番号：</p> <p style="text-align: right;">藍野大学 学長 ㊟</p>

添付資料

- 1) 施設の位置を示す地図
- 2) 施設の平面図

資料 8

藍野大学大学院学則（案）

- 第 1 章 総則
- 第 2 章 組織及び標準修業年限
- 第 3 章 学年、学期及び休業日
- 第 4 章 入学
- 第 5 章 教育課程及び教育方法
- 第 6 章 課程の修了及び学位の授与
- 第 7 章 休学、復学、転学、留学、退学及び除籍
- 第 8 章 科目等履修生、研究生及び研修生
- 第 9 章 入学検定料、入学金、授業料等
- 第 10 章 教職員組織
- 第 11 章 研究科委員会
- 第 12 章 雑則

第 1 章 総 則

（目的）

第 1 条 藍野大学大学院（以下「本大学院」という。）は、医療・看護・健康科学に関する学術の理論と応用を専門的に教授研究し、その深奥を究め、看護学及び健康科学の学術的発展と人々の健康と福祉の向上に貢献することを目的とする。

（自己点検・評価）

第 2 条 本大学院は、教育研究水準の維持向上を図るとともに、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行う。

2 前項の自己点検・評価に関し必要な事項は、別に定める。

第 2 章 組織及び標準修業年限

（課程）

第 3 条 本大学院に修士課程を置く。

（研究科、専攻及び定員等）

第 4 条 本大学院に研究科及び専攻を置き、定員を次のとおりとする。

研究科	専攻	課程	入学定員	収容定員
看護学研究科	看護学専攻	修士課程	6名	12名
健康科学研究科	健康科学専攻	修士課程	6名	12名

- 2 本大学院の標準修業年限は2年とする。ただし、長期履修を選択した者は、3年とする。
- 3 学生は、4年を超えて在学することができない。ただし、長期履修を選択した者は、5年を

超えることはできない。

- 4 前項の規定にかかわらず、第 29 条第 2 項の規定により再入学した学生は、在学すべき年数の 2 倍に相当する年数を超えて在学することができない。

(研究科の目的)

第 5 条 前条に定める研究科及び専攻の人材養成上の目的は、次のとおりとする。

- (1) 看護学研究科は、高齢化社会における医療施設等及び地域社会における高度の専門的職業人ニーズに対応すべく、看護系大学卒業者及び一定のキャリアをもつ社会人を対象に、科学的根拠に基づく知識・技能・技術を修得させ、高い倫理観と豊かな人間性を持ち、高度な専門性と実践能力を有する看護職及び優れたマネジメント能力を有する看護管理者を養成することを目的とする。
- (2) 健康科学研究科は、健康科学に関する深い探求心と洞察力を備え、高齢化社会における医療施設や地域社会の多様なニーズに対応できるよう、科学的根拠に基づく高度な知識・技能・技術を身に付け、当該分野の指導的立場として活躍できる人材を養成し、その成果を地域社会や教育に還元できる人材を育成することを目的とする。

第 3 章 学年、学期及び休業日

(学年)

第 6 条 学年は、4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

(学期)

第 7 条 学年を次の 2 学期に分ける。

前期 4 月 1 日から 9 月 30 日まで

後期 10 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで

(休業日)

第 8 条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日、「国民の祝日に関する法律」に定める休日
 - (2) 創立記念日
 - (3) 春季休業 3 月中旬から 4 月上旬まで
 - (4) 夏季休業 7 月下旬から 9 月中旬まで
 - (5) 冬季休業 12 月下旬から翌年 1 月上旬まで
- 2 学長は、必要により前項の規定にかかわらず、臨時に休業日を設け、又は休業日を変更若しくは休業日に授業を行うことができる。

第 4 章 入 学

(入学の時期)

第 9 条 入学の時期は、4 月とする。ただし、教育上支障がないと認められる場合は、後期のはじめに入学することができる。

(入学資格)

第 10 条 本大学院に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 大学を卒業した者。
 - (2) 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者。
 - (3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者。
 - (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者。
 - (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられる教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者。
 - (6) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が指定するものを文部科学大臣が別に定める日以後に修了した者。
 - (7) 文部科学大臣の指定した者。
 - (8) 研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で入学前年度末までに 22 歳に達した者。
- 2 看護学研究科看護学専攻においては、看護師免許を取得している者。
 - 3 健康科学研究科健康科学専攻においては、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・臨床工学技士などの医療専門職の国家資格を取得している者。

(入学の出願)

第 11 条 本大学院に入学を志願する者は、指定の期日までに入学願書に入学検定料及び別に定める書類を添えて学長に提出しなければならない。

(入学者の選考)

第 12 条 本大学院に入学を志願する者に対しては、別に定めるところにより選考を行い、研究科委員会の議を経て学長が合格者を決定する。

(入学の手続)

第 13 条 前条の規定により合格の通知を受けた者は、指定の期日までに入学手続を完了しなければならない。

第 5 章 教育課程及び教育方法

(教育方法)

第 14 条 本大学院の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に関する指導（以下「研究指導」という。）により行うものとする。

- 2 前項の授業科目の種類及び単位数等は、別表 1 のとおりとする。
- 3 授業科目の履修方法その他の必要な事項は、別に定める。

(長期にわたる教育課程の履修)

第 15 条 研究科長は、別に定めるところにより、学生が職業を有している等の事情により、第 4 条第 2 項のただし書きにあるとおり、標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し、課程を修了することを申し出た場合は、その計画的な履修を認めることができる。

(単位の計算方法)

第 16 条 授業科目の単位の計算方法は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、授業の方法に応じ、次の基準によるものとする。

(1) 講義及び演習においては、15 時間から 30 時間までの授業をもって 1 単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間までの授業をもって 1 単位とする。

(単位の授与)

第 17 条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与えるものとする。

(成績の評価)

第 18 条 授業科目の成績の評価は、AA、A、B、C、Dをもって表し、AA、A、B、Cを合格としDを不合格とする。

2 前項の評価は、100 点をもって満点とし、AA (90 点以上)、A (80 点以上 90 点未満)、B (70 点以上 80 点未満)、C (60 点以上 70 点未満)、D (60 点未満)とする。

(他の大学院の科目の履修)

第 19 条 学長は、学生に対して教育上有益と認めるときは、他の大学院との協議に基づき、学生に当該大学院の科目を履修させることができる。

2 前項の規定により学生が修得した授業科目の単位は、10 単位を超えない範囲で本大学院における科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(他の大学院等における研究指導)

第 20 条 学長は、学生に対して教育上有益と認めるときは、他の大学院又は研究所等との協議に基づき、学生に当該大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けさせることができる。ただし、当該研究指導を受ける期間は、1 年を超えないものとする。

2 前項の規定により受けた研究指導は、本大学院の修了要件となる研究指導として認めることができる。

(入学前の既修得単位の認定)

第 21 条 学長は、学生に対して教育上有益と認めるときは、本大学院に入学する前に大学院 (外国の大学院を含む。) において履修した科目について修得した単位を、本大学院入学後の本大学院における科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により修得したものとみなすことができる単位数は、本大学院において修得した単位以外のものについては、第 19 条第 2 項の規定により修得した単位と合わせて 10 単位を超えないものとする。

(メディアを利用して行う授業)

第 22 条 メディアを利用して行う授業は、あらかじめ指定した日時にパソコンその他双方向の通信手段によって行うものとする。

2 前項の授業を実施する授業科目については、本学が定める授業科目とする。

第 6 章 課程の修了及び学位の授与

(課程の修了)

第 23 条 本大学院に 2 年以上在学し、所定の科目を 30 単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対し、研究科委員会の議を経て、修了を認定する。

(学位の授与)

第 24 条 学長は、前条の規定により修了を認定した者に対し、次の通り学位を授与する。

看護学研究科 看護学専攻 修士(看護学)

健康科学研究科 健康科学専攻 修士(健康科学)

2 学位及びその授与に関し必要な事項は、藍野大学学位規程で定める。

第 7 章 休学、復学、留学、退学及び除籍

(休学)

第 25 条 病気その他やむを得ない事情により 2 ヶ月以上修学することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。

2 学長は疾病のため就学することが適当でないと認められる者については、休学を命ずることができる。

(休学期間)

第 26 条 休学期間は、1 年以内とする。ただし、特別の事情がある場合は、引き続き 1 年に限り延長することができる。

2 休学期間は、通算して 2 年を超えることができない。

3 休学期間は、第 4 条第 3 項及び第 4 項の在学期間に算入しない。

(復学)

第 27 条 第 25 条の規定により休学した者は、休学の期間が満了したとき、又は休学期間中にその事由が消滅したときは、学長の許可を経て復学するものとする。

(留学)

第 28 条 外国の大学院等に留学することを志望する者は、学長の許可を得て留学することができる。

2 前項の留学期間は、在学期間に含めることができる。

(退学)

第 29 条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

- 2 正当な理由により退学した者が再入学を願い出たときは、研究科委員会の議を経て学年のはじめに限り許可することがある。

(除籍)

第 30 条 学長は、次の各号のいずれかに該当する者について、研究科委員会の議を経て、除籍することができる。

- (1) 第 4 条第 3 項の規定による在学年限を超えた者。
- (2) 休学の期間が満了し、復学を願い出ない者。
- (3) 授業料の納付を怠り、督促に対しても納付しない者。
- (4) 死亡した者又は長期にわたり行方不明の者。

第 8 章 科目等履修生、研究生及び研修生

(科目等履修生)

第 31 条 学長は、本大学院において行う一部の授業科目の履修を志望する者があるときは、研究科の教育研究に支障がない場合に限り、選考の上、研究科委員会の議を経て、科目等履修生として入学を許可することができる。

- 2 科目等履修生に関する規程は別に定める。

(研究生)

第 32 条 学長は、本大学院において、特定の専門事項について研究することを志望する者があるときは、研究科の教育研究に支障がない場合に限り、選考の上、研究科委員会の議を経て、研究生として入学を許可することができる。

- 2 研究生に関する規程は別に定める。

(研修生)

第 33 条 学長は、大学その他の団体から、その所属する職員に特定の専門事項について研修させるため、本学に派遣の申し出があるときは、研究科の教育研究に支障がない場合に限り、研究科委員会の議を経て、研修生として入学を許可することができる。

第 9 章 入学検定料、入学金、授業料等

(入学検定料及び学費)

第 34 条 入学検定料及び学費は、別表 2 に定める。

- 2 既に納付した入学検定料及び学費は返還しない。ただし、入学金を除く学費については、本大学院が定める所定の期限内に入学を辞退する旨の申し出があった場合に限り返還することがある。
- 3 第 2 項の規定にかかわらず、学校法人藍野大学学費取扱規程に定める期日までに後期全域に

わたる休学が認められた場合又は前期中に退学した場合若しくは除籍となった場合は、その限りでない。

第10章 教職員組織

(教員)

第35条 本大学院の授業及び研究指導は、大学院設置基準に規定する資格を有する本学の教員が担当する。ただし、研究科委員会の議を経て、兼任教員に授業の担当を委嘱することができる。

(研究科長)

第36条 研究科に研究科長を置く。研究科長は、研究科の学務を掌理する。

(事務組織)

第37条 大学院に関する事務の執行は、学部の事務組織がこれにあたる。

第11章 研究科委員会

(研究科委員会)

第38条 本大学院の各研究科に研究科委員会を置き、研究科長、研究科で研究指導及び研究指導補助を担当する教授、准教授をもって構成する。ただし、研究科長が必要と認めた場合は、他の職員を出席させることができる。

2 研究科委員会は、研究科長がこれを招集し、議長となる。

第39条 研究科委員会は、次の事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 大学院学則、その他諸規程の制定及び改廃に関する事項。
- (2) 教育課程及び学生の教育に関すること。
- (3) 研究に関すること。
- (4) 学生の入学、休学、復学、退学及び除籍に関する事項。
- (5) 単位認定及び課程修了認定並びに学位授与に関する事項。
- (6) 大学院担当教員の人事に関する事項。
- (7) 学生の賞罰に関する事項。
- (8) その他研究科の運営に関する重要事項。

2 その他研究科委員会に関する規程は、別に定める。

第12章 雑則

(準用)

第40条 本学則に定めていない事項については、藍野大学学則を準用する。

(規程の改廃)

第 41 条 本学則の改廃は、研究科委員会の議を経て学長が発議し、理事会が行う。

附 則

この学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2020 年 5 月 25 日から施行し、2020 年 4 月 1 日より適用する。

附 則

この学則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2022 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2024 年 4 月 1 日から施行する。

学校法人藍野大学 大阪茨木キャンパス
 藍野大学・藍野大学短期大学部第一看護学科・法人事務局
 専任教職員就業規則（抄）

〔令和 4 年 4 月 1 日〕
 〔制 定〕

第1条～第27条（略）

（定年）

第 28 条 教職員の定年は、次の各号のとおりとする。

- （1）教育職員の定年は、満 65 歳とし、退職日は年度末（3 月 31 日）とする。
- （2）事務職員の定年は、満 60 歳とし、誕生月の末日を退職日とする。ただし、本人が希望し、解雇事由又は退職事由に該当しない者であって、高年齢者等の雇用の安定等に関する法律（昭和 46 年法律第 68 号。以下「高年齢者雇用安定法」という。）一部改正法附則第 3 項に基づきなお効力を有することとされる改正前の高年齢者雇用安定法第 9 条第 2 項に基づく労使協定の定めるところにより、次の各号に掲げる基準（以下「基準」という。）のいずれにも該当する者については、65 歳まで継続雇用し、基準のいずれかを満たさない者についても、基準の適用年齢まで継続雇用する。
 - ア 引き続き勤務することを希望していること。
 - イ 身体、精神が定年前と同様に就業できる者。本法人は、必要に応じ本法人の指定する医師の診断書を提出させることがある。
 - ウ 過去 5 年間の出勤率が 8 割以上であること。
 - エ 出向を含む職場の配置転換・短時間勤務に応ぜられる者

2 前項の場合において、次の表の左欄に掲げる期間における当該基準の適用については、それぞれ右欄に掲げる年齢以上の者を対象に行うものとする。

平成 25 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで	61 歳
平成 28 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで	62 歳
平成 31 年 4 月 1 日から令和 4 年 3 月 31 日まで	63 歳
令和 4 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで	64 歳

第29条～第86条（略）

藍野大学 任期制教員に関する規程（抄）

〔 2022年3月15日
制 定 〕

（趣旨）

第1条 この規程は、大学の教員等の任期に関する法律（平成9年法律第82号。以下「大学教員任期法」という。）の規定に基づき、藍野大学（以下「大学」という。）に任期を定めて雇用する教員に関し必要な事項を定める。

（定義）

第2条 この規程における教員とは、大学教員任期法の規定に基づき任期を定めて雇用する教員（以下「任期制教員」という。）をいう。

2 前項以外の目的により雇用する教員については、別に定める。

（対象職名、所属組織、任期、学内関連規程等）

第3条 任期制教員の対象職名、所属組織、任期、学内関連規程等は、別表のとおりとする。

（再任に関する事項）

第4条 任期制教員の再任に関する事項は、任期制教員の評価及び別表によるほか、その詳細は別表に示す当該任期制教員の規程等において定める。この場合において、再任とは、当該任期が満了し、同一職に引き続き任用されることをいう。

2 任期制教員として本法人に雇用されていた者を別の職名の任期制教員として再雇用する場合には、再雇用となる当該任期制教員の規程等において定める。

第5条 （略）

（その他の事項）

第6条 任期制教員において、この規程に定めのない事項は、別表に示す当該任期制教員の規程等にて定める。

（規程の改廃）

第7条 この規程の改廃は、運営会議の議を経て学長が行う。

附 則

1 この規程は、2022年4月1日から施行する。

2 藍野大学特任教員任用に関する規程（平成21年5月28日制定）、藍野大学任期付専任教員等の任用に関する規程（平成28年11月28日制定）、藍野大学非常勤講師及び非常勤実験実習助手の任用等に関する規程（平成21年5月14日制定）は、廃止する。

3 2022年3月31日以前に任期制教員として雇用されている者にも適用する。

附 則

この規程は、2022年5月25日から施行する。

別表1（第3条、第4条及び第6条関係）

種別	対象職名	任期（上限）	再任に関する事項
任期付教員	講師	当初3年 通算5年	再任用可能（1回のみ） 再任用期間2年
	助教		
	助手		
特別任用教員	特任教授	1年	再任用可能（4回を限度） 満70歳までとする。
	特任准教授		
	特任講師		
	特任助教		
非常勤教員	非常勤講師	1年	再任用可能（4回を限度） 満70歳までとする。
	非常勤実験実習助手		
客員教員	客員教授	1年	再任用可能（必要とする期間）
	客員准教授		

別表2（略）

資料11

登録番号	和/洋	請求記号	配架場所	書名	副書名
1	和書	491.36 B43	2F 第一閲覧室	ボディ・ナビゲーションムーブメント	筋肉と骨と神経を組み立て、解剖と機能を学ぼう
2	洋書	491.36 B78 [4]	1F 外国語図書室	Brunnstrom's Clinical kinesiology	
3	和書	491.36 B78 [6]	2F 第一閲覧室	ブルンストローム臨床運動学	
4	和書	491.36 E34	2F 第一閲覧室	身体運動の理解につなげる物理学	[PT] [OT] [PO]
5	和書	491.36 E34	2F 第一閲覧室	立ち上がり動作の分析	
6	和書	491.36 F66 [2]	2F 第一閲覧室	日常生活活動の分析	身体運動学的アプローチ
7	和書	491.36 F76	2F 第一閲覧室	消して忘れない運動学要点整理ノート	
8	和書	491.36 F89	2F 第一閲覧室	運動の成り立ちとは何か	
9	和書	491.36 G82	2F 第一閲覧室	キネシオロジー	日常生活活動の運動学
10	洋書	491.36 G82	1F 外国語図書室	Kinesiology	movement in the context of activity
11	和書	491.36 G82 [2]	2F 第一閲覧室	日常生活活動のキネシオロジー	
12	和書	491.36 G88 [3]	2F 第一閲覧室	筋骨格系検査法	
13	和書	491.36 H48	2F 第一閲覧室	バイオメカニクス入門	
14	和書	491.36 I13	2F 第一閲覧室	身体運動学	関節の制御機構と筋機能
15	和書	491.36 Ka53	2F 第一閲覧室	バイオメカニクス	身体運動の科学的基礎
16	和書	491.36 Ka53	2F 第一閲覧室	スポーツ・バイオメカニクス入門	絵でみる講義ノート
17	和書	491.36 Ka87	2F 第一閲覧室	介助にいかすバイオメカニクス	
18	和書	491.36 Ki45	2F 第一閲覧室	運動器の超音波	
19	和書	491.36 Ki63	2F 第一閲覧室	機能解剖・バイオメカニクス	
20	洋書	491.36 Ko95	1F 外国語図書室	Practical kinesiology for the physical therapist assistants	
21	和書	491.36 Ko97	2F 第一閲覧室	PT・OTのための運動学テキスト	基礎・実習・臨床
22	和書	491.36 Kr2	2F 第一閲覧室	プログラム学習による人体運動の基礎力学	
23	和書	491.36 Ku14	2F 第一閲覧室	骨・筋肉・皮膚イラストレイタッド	病態生理とアセスメント
24	洋書	491.36 L67 [4]	1F 外国語図書室	Clinical kinesiology and anatomy	
25	和書	491.36 Ma26	2F 第一閲覧室	使えるバイオメカニクス	解いてなっとく
26	和書	491.36 Ma47	2F 第一閲覧室	エッセンシャル・キネシオロジー	機能的運動学の基礎と臨床
27	和書	491.36 Ma59	2F 新書	筋肉はなぜ動く	
28	洋書	491.36 Mi59 1	1F 外国語図書室	The Muscle Energy Manual	
29	和書	491.36 Mi77	2F 第一閲覧室	人間の運動学	ヒューマン・キネシオロジー
30	和書	491.36 N37	1F 書庫	基礎運動学	
31	和書	491.36 N37 [2]	1F 書庫	臨床運動学	
32	和書	491.36 N37 [6]	2F 第一閲覧室	基礎運動学	
33	和書	491.36 N42	2F 第一閲覧室	運動学	イラスト・ふりがな付き
34	和書	491.36 N42	目録入力待ち	PT・OT基礎から学ぶ運動学ノート	
35	和書	491.36 N42	2F 第一閲覧室	PT・OT基礎から学ぶ運動学ノート	
36	和書	491.36 N67	2F 第一閲覧室	筋骨格系のキネシオロジー	
37	洋書	491.36 N67	1F 外国語図書室	Kinesiology of the musculoskeletal system	foundations for physical rehabilitation
38	和書	491.36 N67 [2]	2F 第一閲覧室	カラー版筋骨格系のキネシオロジー	
39	和書	491.36 N67 [3]	2F 第一閲覧室	筋骨格系のキネシオロジー	
40	和書	491.36 N84	2F 第一閲覧室	実践動作分析	動作のメカニズムがよくわかる
41	和書	491.36 O11 [2]	2F 第一閲覧室	オーチスのキネシオロジー	身体運動の力学と病態力学
42	和書	491.36 O67	2F 第一閲覧室	運動と免疫	からだをまもる運動のふしぎ
43	和書	491.36 P42	2F 第一閲覧室	臨床運動学ワークブック	
44	和書	491.36 Sa25 [3]	2F 第一閲覧室	運動学	
45	和書	491.36 Sa59	2F 第一閲覧室	運動学とバイオメカニクスの基礎	
46	和書	491.36 Sh69 2	2F 第一閲覧室	身体運動のスキル	
47	和書	491.36 Sh69 3	2F 第一閲覧室	運動の制御	
48	洋書	491.36 So83	1F 外国語図書室	The aesthetics of movement	
49	和書	491.36 Ta67	2F 第一閲覧室	表面解剖と代償運動	
50	和書	491.36 Ts54 [2]	2F 第一閲覧室	運動の生物学	臨床家のための脳科学
51	和書	491.36 Ts54 1	1F 書庫	臨床家のための運動学入門	
52	和書	491.36 Ts54 3	2F 第一閲覧室	意識へと向かう臨床のビジョン	
53	洋書	491.36 W57 [6]	1F 外国語図書室	Kinesiology	scientific basis of human motion
54	和書	491.36 W77	2F 第一閲覧室	バイオメカニクス	人体運動の力学と制御
55	和書	491.36 Y31 [2]	2F 第一閲覧室	基礎バイオメカニクス	理解が深まるパワーポイント
56	和書	491.36 Y43 [1]	2F 第二閲覧室	運動学	
57	和書	491.36 Y48	2F 第一閲覧室	臨床実践動きのとなえかた	何をみるのかその思考と試行
58	和書	491.36 Y97	2F 第一閲覧室	PT・OTのための臨床運動学ワークブック	基礎学習を臨床へつなげる
59	和書	491.36 Z1	2F 第一閲覧室	身体動作の運動学	
60	和書	491.36 H68	2F 第一閲覧室	運動時の体温調節システムとそれを修飾する要因	運動時の体温調節システムとそれを修飾する要因
61	和書	491.36 Ka62	2F 参考図書室	からだの温度の事典	
62	和書	491.36 N22	2F 第一閲覧室	体温の「なぜ?」がわかる生理学	からだで感じる・考える・理解する
63	和書	491.36 N45	2F 第一閲覧室	温熱生理学	
64	洋書	491.363 B26 [5]	1F 外国語図書室	Muscles alive	their functions revealed by electromyography
65	洋書	491.363 C84	1F 外国語図書室	Muscles in action	an approach to manual muscle testing
66	和書	491.363 D37 [4]	1F 書庫	徒手筋力検査法	
67	洋書	491.363 D37 [4]	1F 外国語図書室	Muscle testing	techniques of manual examination
68	和書	491.363 D37 [5]	1F 書庫	徒手筋力検査法	
69	和書	491.363 F79	2F 参考図書室	筋の科学事典	構造・機能・運動
70	和書	491.363 H76 [6]	1F 書庫	新・徒手筋力検査法	
71	洋書	491.363 H76 [8]	1F 外国語図書室	Daniels and Worthingham's muscle testing	techniques of manual examination
72	和書	491.363 I27	2F 第一閲覧室	筋学ハンドブック	
73	和書	491.363 I75	2F 第一閲覧室	運動に関わる筋肉のしくみ	ビジュアル版 徹底解剖
74	和書	491.363 I75 1	2F 第一閲覧室	重力と闘う筋	筋はどのようにして力を出すのか?
75	和書	491.363 I75 2	2F 第一閲覧室	筋を鍛える	トレーニングするとからだはどうなるのか?
76	洋書	491.363 J21	1F 外国語図書室	Muscle function testing	
77	和書	491.363 J25	2F 第一閲覧室	骨格筋ハンドブック	機能解剖からクワサイズまで一目でわかる
78	和書	491.363 Ke41	2F 第一閲覧室	ケンダル筋機能とテスト	姿勢と痛み
79	和書	491.363 Ke41 [2]	1F 書庫	筋力テスト	筋の機能と検査
80	洋書	491.363 Ke41 [2]	1F 外国語図書室	Muscles, testing and function	
81	和書	491.363 Ki44	2F 第一閲覧室	筋肉と関節のしくみがわかる事典	ビジュアル版
82	和書	491.363 KNR	紛失および追加	筋力テストー筋の機能と検査ー第2版	
83	和書	491.363 Ku34	2F 第一閲覧室	二関節筋	運動制御とリハビリテーション
84	和書	491.363 L62 [3]	2F 第一閲覧室	骨格筋の構造・機能と可塑性	理学療法のための筋機能学
85	和書	491.363 Mo39	2F 第一閲覧室	マッサージのための機能解剖学	学習と臨床に役立つ
86	和書	491.363 N23	2F 第一閲覧室	筋と筋力の科学	筋収縮のスペクトル解析
87	和書	491.363 N51	2F 第一閲覧室	筋力	
88	洋書	491.363 P55	1F 外国語図書室	Mechanics of skeletal and cardiac muscle	
89	和書	491.363 R23	2F 第一閲覧室	筋・感覚検査法	
90	和書	491.363 R23 [2]	1F 外国語図書室	Muscle and sensory testing	
91	和書	491.363 Sa25	2F 第一閲覧室	MMT	適切な検査部位の特定と代償運動の制御 臨床で検査精度を高める
92	和書	491.363 Sc4	2F 第一閲覧室	膜・筋膜	人体の張力ネットワーク 最新知見と治療アプローチ
93	和書	491.363 Y11	2F 第一閲覧室	人体筋出力の生理的限界と心理的限界	
94	和書	491.363 Y24	2F 第一閲覧室	筋・骨メカニクス	リハビリ、スポーツのための機能解剖学 カラー図解
95	和書	491.363 Y96	2F 第一閲覧室	筋肉	筋肉の構造・役割と筋出力のメカニズム
96	和書	491.363 Z1	2F 第一閲覧室	骨格筋のバイオメカニクス	筋線維から運動協調性まで
97	和書	491.363 ZUS	紛失および追加	図説 筋の機能解剖 第3版	
98	和書	491.363 A53	2F 第一閲覧室	ROMナビ	動画で学ぶ関節可動域測定法

99	100003726	和書	491.366	E34			歩き始めと歩行の分析		
100	100017858	和書	491.366	F72		2F 第一閲覧室	骨・関節・筋肉の構造と動作のしくみ	オールカラー	
101	100018472	和書	491.366	H55		2F 第一閲覧室	よくわかる膝関節の動きとしくみ		
102	100017608	和書	491.366	Ka61		2F 第一閲覧室	カバンジ-生体力学の世界	「動き」が「痛み」のメカニズムを図解で学ぶ! 身体支持と可動性 次世代へのメッセージ 地球上の生物に共通する動きの仕組み	
103	024226	和書	491.366	Ka61	1	2F 第一閲覧室	上肢		
104	180008860	洋書	491.366	Ka61	1	1F 外国語図書室	The physiology of the joints	annotated diagrams of the mechanics of the human joints. 2nd ed	
105	100013911	和書	491.366	Ka61	1-2	2F 第一閲覧室	上肢		
106	100014006	和書	491.366	Ka61	1-2		上肢		
107	100005843	和書	491.366	Ka61	1-2	2F 第一閲覧室	カバンディ関節の生理学		
108	100022457	和書	491.366	Ka61	1-3	2F 第一閲覧室	上肢		
109	024227	和書	491.366	Ka61	2	2F 第一閲覧室	下肢		
110	014858	洋書	491.366	Ka61	2	1F 外国語図書室	The physiology of the joints	annotated diagrams of the mechanics of the human joints	
111	100022458	和書	491.366	Ka61	2-4	2F 第一閲覧室	下肢		
112	100008892	和書	491.366	Ka61	3		遊及入力待ち	肩・腕・肘・手関節の生理学	脊椎・体幹・頭部
113	024228	和書	491.366	Ka61	3	2F 第一閲覧室	体幹・脊柱		
114	014857	洋書	491.366	Ka61	3	1F 外国語図書室	The physiology of the joints	annotated diagrams of the mechanics of the human joints	
115	100013913	和書	491.366	Ka61	3-2		脊椎・体幹・頭部		
116	100017602	和書	491.366	Ka83		2F 第一閲覧室	関節内運動学	4D-CTで解き明かす DVD-ROM付	
117	100017859	和書	491.366	Ka97		2F 第一閲覧室	ぜんぶわかる動作・運動別筋肉・関節のしくみ事典	リアルな部位別解剖図で詳細解説	
118	100018475	和書	491.366	N14		2F 第一閲覧室	よくわかる首・肩関節の動きとしくみ		
119	100018459	和書	491.366	N77		2F 第一閲覧室	骨ペディア	「動き」が「痛み」のメカニズムを図解で学ぶ! 障害を解くイイ オールカラー	
120	014333	和書	491.366	N96		1F 書庫	関節可動域測定法	骨疾患・骨代謝キーワード事典	
121	100016378	和書	491.366	O52	[2]		関節可動域制限	可動域測定の手引き	
122	100004348	和書	491.366	R45		2F 第一閲覧室	関節モーメントによる歩行分析	病態の理解と治療の考え方	
123	100023446	和書	491.367	A84		2F 第一閲覧室	運動制御と臨床応用	運動・姿勢のメカニズムと協調性の理論と実践	
124	100008392	和書	491.367	A93		2F 第一閲覧室	運動生理学		
125	023742	和書	491.367	A93		1F 書庫	運動生理学		
126	100018941	和書	491.367	B14	[3]	2F 第一閲覧室	ストレングストレーニング&コンディショニング	NSCA決定版	
127	100009083	和書	491.367	B38		2F 第一閲覧室	デスクリテリィ巧みさとその発達		
128	100021947	和書	491.367	B64		2F 第一閲覧室	印象から始める歩行分析	エキスパートは何を考えた、どこを見ているのか?	
129	100002204	洋書	491.367	B94		1F 外国語図書室	Movement skill assessment		
130	100003452	和書	491.367	C45		2F 第一閲覧室	スポーツ生理学の基礎知識	トレーニングのメカニズムと実践のメカニズム	
131	025824	和書	491.367	C84		1F 外国語図書室	THE RIGHT PROTEIN FOR MUSCLE AND STRENGTH		
132	100021856	和書	491.367	C87		2F 第一閲覧室	走る、泳ぐ、タマす	アスリートがハマるドーピングの知られざる科学	
133	100017296	和書	491.367	C87		2F 第一閲覧室	ムーブメント	アスリートがハマるドーピングの知られざる科学	
134	180008821	洋書	491.367	C87		1F 外国語図書室	Kinesiology	アスリートがハマるドーピングの知られざる科学	
135	100004091	和書	491.367	D77		2F 第一閲覧室	スポーツとエネルギー	パワーの限界と記録	
136	100021841	和書	491.367	E34		2F 第一閲覧室	立ち上がりと歩行の分析		
137	100012499	和書	491.367	E34		2F 第一閲覧室	臨床歩行計測入門		
138	100013551	和書	491.367	F46			目録入力待ち	目でわかる筋カトレーニングの解剖学	ひと目でわかる強化部位と筋名
139	180008867	和書	491.367	F68		2F 第一閲覧室	身体活動と体カトレーニング		
140	100021144	和書	491.367	F89		2F 第一閲覧室	理学療法・作業療法のための実践編BiNI approach	運動の成り立ちから深く治療をシンプルにする法則性	
141	014949	洋書	491.367	G17	[2]	1F 外国語図書室	Human movement	an introductory text for physiotherapy students	
142	100011800	和書	491.367	G48		2F 第一閲覧室	ACSMメカボリック・カリキュレーション・ハンドブック	運動時代謝の計算法	
143	100013720	和書	491.367	G72		2F 第一閲覧室	観察による歩行分析		
144	100004894	和書	491.367	G72		2F 第一閲覧室	観察による歩行分析		
145	180008847	洋書	491.367	G74	[2]	1F 外国語図書室	Understanding the scientific bases of human movement		
146	100008968	和書	491.367	G85		2F 第一閲覧室	バイオメカニクスと動作分析の原理		
147	100021006	和書	491.367	H11	[4]	2F 第一閲覧室	ストレングストレーニング&コンディショニング	NSCA決定版	
148	100003823	和書	491.367	H12		2F 第一閲覧室	トレーニング生理学		
149	180008789	洋書	491.367	H26		1F 外国語図書室	Biomechanical basis of human movement		
150	100022211	和書	491.367	H42		2F 第一閲覧室	姿勢・動作・歩行分析		
151	100012613	和書	491.367	H43		2F 第一閲覧室	乳酸と運動生理・生化学	エネルギー代謝の仕組み	
152	100008793	和書	491.367	H43		2F 第一閲覧室	乳酸	「運動」「疲労」「健康」との関係は?	
153	100004086	和書	491.367	H43		2F 第一閲覧室	エネルギー代謝を活かしたスポーツトレーニング		
154	100003663	和書	491.367	H43			乳酸を活かしたスポーツトレーニング		
155	100019224	和書	491.367	H43	[2]	2F 第一閲覧室	乳酸をどう活かすか		
156	100014794	和書	491.367	H46			目録入力待ち	スポーツ技術のバイオメカニクス	
157	180008833	洋書	491.367	H52		1F 外国語図書室	Neural control of locomotion		
158	100018530	和書	491.367	H56		2F 第一閲覧室	姿勢と歩行	協調からひも解く	
159	100013963	和書	491.367	H56		2F 第一閲覧室	スポーツ現場に生かす運動生理・生化学		
160	100003744	和書	491.367	H96		2F 第一閲覧室	運動生化学ハンドブック		
161	014624	和書	491.367	I31		2F 第一閲覧室	身体運動の生理学		
162	180002028	和書	491.367	Ka31		2F 第一閲覧室	PT・OT学生のための運動学実習	生体力学から動作学まで	
163	180008907	和書	491.367	Ka37		2F 第一閲覧室	運動の生理学	骨から神経まで	
164	100012246	和書	491.367	Ka79			目録入力待ち	運動生理学の基礎と発展	
165	100020859	和書	491.367	Ka84		2F 第一閲覧室	カラー運動生理学大事典	健康・スポーツ現場で役立つ理論と応用	
166	034730	和書	491.367	Ka88		2F 第一閲覧室	運動生理学20講		
167	100019227	和書	491.367	Ka88	[4]	2F 第一閲覧室	入門運動生理学		
168	100019917	和書	491.367	Ke56		2F 第一閲覧室	リハビリテーション運動生理学		
169	100017842	和書	491.367	Ki44		2F 第一閲覧室	筋肉・関節・骨の動きとしくみ	オールカラー	
170	100012614	和書	491.367	Ki63	[2]	2F 第一閲覧室	運動とスポーツの生理学		
171	014305	和書	491.367	Ku14		2F 第一閲覧室	歩行分析データ活用マニュアル		
172	018303	和書	491.367	Ku14		2F 第一閲覧室	スポーツと脳のはたらき		
173	100019949	和書	491.367	L96		2F 第一閲覧室	実践にいかす歩行分析		
174	180008820	洋書	491.367	L97	[7]	1F 外国語図書室	Kinesiology	明日から使える観察・計測のポイント	
175	180006826	和書	491.367	Ma13		2F 第一閲覧室	運動生理学	scientific basis of human motion	
176	100004452	和書	491.367	Mi78			運動と呼吸	エネルギー・栄養・ヒューマンパフォーマンス	
177	100003757	和書	491.367	Mi78		2F 第一閲覧室	呼吸	運動に対する応答とトレーニング効果	
178	100004093	和書	491.367	Mi78		2F 第一閲覧室	最新運動生理学	身体パフォーマンスの科学的基礎	
179	100017595	和書	491.367	Mi78	1	2F 第一閲覧室	ニュー運動生理学		
180	016379	和書	491.367	N39		1F 書庫	図説・運動の仕組みと応用	運動・生理・生化学・栄養	
181	100015638	和書	491.367	N46		2F 第一閲覧室	1から学ぶスポーツ生理学		
182	014866	洋書	491.367	Sh14		1F 外国語図書室	Physiology and biochemistry of exercise		
183	016335	和書	491.367	Sh39		2F 第一閲覧室	運動の反射生理学	その基礎と臨床的応用	
184	100002206	洋書	491.367	Sm5	[5]	1F 外国語図書室	Brunnstrom's clinical kinesiology		
185	180008819	洋書	491.367	St3		1F 外国語図書室	Kinesiology of the human body under normal and pathological conditions		
186	100006916	和書	491.367	Su32		2F 第一閲覧室	やさしい運動生理学		
187	100012312	和書	491.367	Y19	[2]	2F 第一閲覧室	生化学・生理学からみた骨格筋に対するトレーニング効果		
188	021005	和書	491.367	Y26		2F 第一閲覧室	最大酸素摂取量の科学		
189	100021655	和書	492.5	A32	[2]	2F 第一閲覧室	スポーツ理学療法学	動作に基づく外傷・障害の理解と評価・治療の進め方	
190	100011801	和書	492.5	A44		2F 第一閲覧室	慢性疾患を有する人への運動指導テキスト	診断・治療からフィットネスまで	
191	100011877	和書	492.5	A45		2F 第一閲覧室	理学療法ケーススタディ良好・難渋例の臨床		
192	100010542	和書	492.5	B97		2F 第一閲覧室	物理療法学		
193	100018788	和書	492.5	F46		2F 第一閲覧室	筋膜ストレッチセラピー		
194	100015515	和書	492.5	F48		2F 第一閲覧室	リハビリテーションと理学療法エッセンシャル	臨床で役立つ診断と治療	
195	014958	洋書	492.5	G73	[2]	1F 外国語図書室	Orthopaedic and sports physical therapy		
196	180000731	洋書	492.5	G96	[2]	1F 外国語図書室	Training therapy	prophylaxis and rehabilitation	
197	100002917	洋書	492.5	H21		1F 外国語図書室	Therapeutic exercise	moving toward function	

198	100019142	和書	492.5	H22	2F 第一閲覧室	テキスト物理療法学	基礎と臨床
199	100022814	和書	492.5	H38	2F 第一閲覧室	臨床実践体幹の理学療法	
200	100021400	和書	492.5	H38	2F 第一閲覧室	臨床実践肩関節の理学療法	
201	100020702	和書	492.5	H38	2F 第一閲覧室	臨床実践足部・足関節の理学療法	
202	100019343	和書	492.5	H38	2F 第一閲覧室	臨床実践変形性膝関節症の理学療法	
203	100021660	和書	492.5	H42	2F 第一閲覧室	理学療法のための筋力トレーニングと運動学習	動作分析から始める根拠にもとづく運動療法
204	180008855	洋書	492.5	H45	1F 外国語図書室	The older patient and the role of the physiotherapist	
205	100015071	和書	492.5	H48	2F 第一閲覧室	整形徒手理学療法	Kaltenborn-Evjenth concept
206	180012832	和書	492.5	H48	2F 第一閲覧室	運動療法のための機能解剖学的触診技術	
207	180000792	洋書	492.5	H53	1F 外国語図書室	Management of common musculoskeletal disorders	physical therapy principles and methods
208	100015845	和書	492.5	H99	2F 第一閲覧室	骨関節理学療法学	
209	100016095	和書	492.5	H99	2F 第一閲覧室	内部障害理学療法学	
210	100014870	和書	492.5	H99	2F 第一閲覧室	運動学	
211	100005784	和書	492.5	H99	2F 第一閲覧室	基礎理学療法学	
212	180000297	和書	492.5	H99	2F 第一閲覧室	地域理学療法学	
213	100005332	和書	492.5	I76	2F 第一閲覧室	図解理学療法技術ガイド	理学療法臨床の場で必ず役立つ実践のすべて
214	100008381	和書	492.5	K4	2F 第一閲覧室	機能的運動療法	クライアント・ゴール・バッチのリハビリテーション
215	014956	洋書	492.5	Kn1	1F 外国語図書室	Physiotherapeutisches Rezeptierbuch	Vorschläge für physiotherapeutische Verordnungen
216	100021312	和書	492.5	Ko12	2F 第一閲覧室	足部・足関節	
217	100017999	和書	492.5	Ko83	2F 第一閲覧室	外来整形外科のための退行変性疾患の理学療法	
218	100007151	和書	492.5	Ko97	2F 第一閲覧室	実践PTノート	運動器傷害の理学療法
219	100020554	和書	492.5	Ku65	2F 第一閲覧室	クリニカル・リサーチングで内部障害の理学療法に強くなる!	
220	017089	洋書	492.5	Ku7	1F 外国語図書室	Diagnostische und Therapeutische Praxis bei Spastischen Laehmungen	Teamarbeit zwischen Arzt und Krankengymnast
221	100004724	和書	492.5	Ku74	2F 第一閲覧室	6ステップ式理学療法士のための臨床動作分析マニュアル	
222	180009638	和書	492.5	Ku74	2F 第一閲覧室	臨床理学療法マニュアル	
223	100021661	和書	492.5	Mi24	2F 第一閲覧室	非特異的腰痛のリハビリテーション	
224	100021932	和書	492.5	Mi76	2F 第一閲覧室	会話例とワークで学ぶ理学療法コミュニケーション論	
225	100019305	和書	492.5	Mi83	2F 第一閲覧室	サスペンション・エクササイズ	レドコード・エクササイズからの進化 Suspension exercises
226	100007965	和書	492.5	Mo12	2F 第一閲覧室	筋機能改善の理学療法とそのメカニズム	理学療法の科学的基礎を求めて
227	100017430	和書	492.5	Mo12	2F 第一閲覧室	筋機能改善の理学療法とそのメカニズム	理学療法の科学的基礎を求めて
228	100019098	和書	492.5	My1	2F 第一閲覧室	アナトミー・トレイン	徒手運動療法のための筋筋膜線
229	100021652	和書	492.5	N14	2F 第一閲覧室	股関節	
230	100014255	和書	492.5	N16	2F 第一閲覧室	PT・OT学生のための実習を乗り切るらくらく実践術	
231	100021679	和書	492.5	N32	2F 第一閲覧室	理学療法管理学	良質な医療・介護提供のための管理運営・政策論
232	016337	和書	492.5	N37	1F 書庫	中枢神経疾患の理学療法	姿勢・運動異常とその治療
233	100006755	和書	492.5	N51	2F 第一閲覧室	姿勢調節障害の理学療法	
234	100003545	和書	492.5	N51	2F 第一閲覧室	理学療法教育論	
235	100003253	和書	492.5	N51		理学療法の本質を問う	
236	180002299	和書	492.5	N51	1F 書庫	理学療法概論	
237	100015099	和書	492.5	N51	2F 第一閲覧室	姿勢調節障害の理学療法	
238	100012833	和書	492.5	N51	2F 第一閲覧室	理学療法士のための運動処方マニュアル	
239	100012830	和書	492.5	N51	2F 第一閲覧室	図解理学療法検査・測定ガイド	
240	100007729	和書	492.5	N51	2F 第一閲覧室	系統別・治療手技の展開	感覚器系(外皮)・結合組織(リンパ系/筋系/神経系/関節系)
241	100007808	和書	492.5	N51	2F 第一閲覧室	理学療法概論	
242	100008232	和書	492.5	N51	2F 第一閲覧室	理学療法のとらえかた	clinical reasoning
243	100022201	和書	492.5	N52	2F 第一閲覧室	脊柱	
244	180002825	和書	492.5	N77	2F 第一閲覧室	理学療法機器概論	
245	180005298	和書	492.5	N77	2F 第一閲覧室	地域理学療法マニュアル	老人保健法に関わる地域リハビリテーション活動を中心に
246	100024787	和書	492.5	N77	2F 第一閲覧室	理学療法ガイドライン	
247	100019058	和書	492.5	N77	2F 第一閲覧室	臨床実習教育の手引き	
248	180002287	和書	492.5	N77	2F 参考図書室	理学療法白書	
249	180006866	和書	492.5	P95	2F 第一閲覧室	循環器疾患の理学療法	
250	100020232	和書	492.5	P95	2F 第一閲覧室	脊髄損傷の理学療法	羽田晋也(ほか)著
251	014322	和書	492.5	Q1	1F 書庫	下肢切断の理学療法	Q&A・フローチャートによる
252	016204	和書	492.5	R39	1F 書庫	理学療法ハンドブック	
253	180000698	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	運動学ワークブック	
254	180000231	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	理学療法概論	
255	180011405	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	臨床運動学	
256	100006161	和書	492.5	R39	2F 参考図書室	理学療法の基礎と評価	
257	100010546	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	腰痛の理学療法	
258	100011749	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	子どもの理学療法	脳性麻痺の早期アプローチから地域理学療法まで
259	100012998	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	脳科学と理学療法	
260	100018536	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	理学療法技術の再検証	科学的技術の確立に向けて
261	100018790	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	ICUの理学療法	
262	100019301	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	ニューロリハと理学療法	
263	100011742	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	運動器疾患	
264	021683	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	脳損傷の理学療法	回復期から維持期のリハビリテーション
265	016200	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	理学療法評価法	
266	100007785	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	運動発達と反射	反射検査の手技と評価
267	100013784	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	治療アプローチ	
268	100019298	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	ウェルネスと理学療法	
269	100020514	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	がんの理学療法	
270	100022862	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	急性期の脳卒中理学療法	
271	100022863	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	回復期・生活期の脳卒中理学療法	
272	100013053	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	呼吸・循環・代謝疾患	
273	022429	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	疼痛の理学療法	
274	016199	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	運動療法	
275	100010538	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	疼痛の理学療法	慢性痛の理解とエビデンス
276	180008874	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	運動療法	第2版
277	180011264	和書	492.5	R39	2F 第一閲覧室	運動療法	
278	180000584	和書	492.5	R39	1F 書庫	疾患別・理学療法プログラム	
279	100018437	和書	493.3	H87	2F 第一閲覧室	動画でわかる呼吸コンディショニングテクニック	
280	100005026	和書	493.3	H99	2F 第一閲覧室	標準呼吸器病学	
281	033470	和書	493.3	I99	2F 第一閲覧室	呼吸器病レジデント・マニュアル	
282	010712	和書	493.3	I99	2F 第一閲覧室	MIL呼吸器診断	
283	000387	和書	493.3	Ka43	1F 書庫	新しい検査法からみた呼吸器疾患の診断	
284	010748	和書	493.3	Ka43	2F 第一閲覧室	呼吸のしくみと肺の病気	
285	036444	和書	493.3	Ka94	2F 第一閲覧室	呼吸器疾患の分子生物学	
286	100019920	和書	493.3	Ki12	2F 第一閲覧室	慢性呼吸器疾患患者の大災害対策	チーム・アプローチのための情報
287	020892	和書	493.3	Ki12	2F 第一閲覧室	在宅酸素療法マニュアル	新しいチーム医療をめざして
288	010711	和書	493.3	Ki64	1F 書庫	呼吸器障害の臨床	
289	000097	和書	493.3	Ko12	1F 書庫	ベッドサイドの呼吸器病学	症例からみたX線像
290	100006590	和書	493.3	Ko24	2F 第一閲覧室	最新呼吸ケアハンドブック	エビデンスに基づく実践ガイドライン ポケット版
291	021705	和書	493.3	Ko24	2F 第一閲覧室	EBM呼吸ケアハンドブック	ポケット版 証拠に基づく実践ガイドライン
292	100015047	和書	493.3	Ko54	2F 第一閲覧室	呼吸を楽にして健康増進	呼吸のセルフマネジメント 慢性呼吸器疾患患者さんご自身のためのガイドブック
293	016071	和書	493.3	Ko54	1F 書庫	呼吸器疾患のプライマリケア	
294	100002573	和書	493.3	Ko54	1F 書庫	呼吸器疾患最新の治療	
295	100018257	和書	493.3	Ko79	2F 第一閲覧室	シンプル呼吸器学	
296	100024289	和書	493.3	Ko99	2F 第一閲覧室	イラストでわかる患者さんのための呼吸リハビリ入門	

297	100009394	和書	493.3	Ku17	2F 第一閲覧室	呼吸器専門医テキスト	
298	100022053	和書	493.3	Ku51	2F 第一閲覧室	その呼吸器診療本当に必要ですか?	あるのかないのかエビデンス
299	100018443	和書	493.3	Ku51	2F 第一閲覧室	ねころんで読める呼吸のすべて	
300	100019640	和書	493.3	Ku51 2	2F 第一閲覧室	もっかねころんで読める呼吸のすべて	
301	100006103	和書	493.3	Ku76	2F 第一閲覧室	呼吸リハビリテーション	基礎概念と呼吸介助手技 佐野裕子著
302	008934	洋書	493.3	L92	1F 外国語図書室	Handbook of respiratory care	
303	008908	洋書	493.3	Ma39	1F 外国語図書室	Organization and management for respiratory therapists	
304	025808	和書	493.3	Ma54	2F 第一閲覧室	酸素療法	
305	100007600	和書	493.3	Ma83	2F 第一閲覧室	風邪の話	たかが風邪、されど風邪、風邪対策の知恵とヒント
306	100020656	和書	493.3	Ma87	2F 第一閲覧室	ガイドライン+αの危険な咳・そうでない咳の見分け方	
307	010763	和書	493.3	Mi45	2F 第一閲覧室	呼吸管理ハンドブック	
308	100005601	和書	493.3	Mi72		動画でわかるスクイージング	安全で効果的に行う排痰のテクニック
309	036362	和書	493.3	Mo45	2F 第一閲覧室	新呼吸器病学	
310	036374	和書	493.3	Mo45 [2]	2F 第一閲覧室	呼吸器診療実践マニュアル	
311	032744	和書	493.3	Mo81	2F 第一閲覧室	慢性呼吸器病の日常管理	
312	100022248	和書	493.3	Mu23	2F 第一閲覧室	臨床呼吸器感染症学	
313	100004993	和書	493.3	N14	2F 第一閲覧室	呼吸ケア実践ハンドブック	管理とリハビリテーションのすべて
314	012426	和書	493.3	N16	2F 第一閲覧室	呼吸療法入門	
315	000412	和書	493.3	N16	1F 書庫	内科医のための呼吸管理の実際	
316	036328	和書	493.3	N43	2F 第一閲覧室	呼吸器疾患	
317	100006206	和書	493.3	N71	2F 第一閲覧室	呼吸アセスメント	呼吸ケアのためのチーム医療実践ガイド
318	100004419	和書	493.3	N71	2F 参考図書室	在宅呼吸ケア白書	
319	100021052	和書	493.3	N77	2F 第一閲覧室	酸素療法マニュアル	
320	100018925	和書	493.3	N77	2F 第一閲覧室	新呼吸療法テキスト	
321	100008729	和書	493.3	N77	2F 第一閲覧室	呼吸リハビリテーションマニュアル	患者教育の考え方と実践
322	100015916	和書	493.3	N77 [2]	2F 第一閲覧室	運動療法	
323	100004786	和書	493.3	N77 [2]	2F 第一閲覧室	呼吸療法テキスト	
324	100022112	和書	493.3	N77 19	2F 第一閲覧室	大気・室内環境関連疾患予防と対策の手引き	
325	100013525	和書	493.3	N99	2F 第一閲覧室	見てわかる医療スタッフのための痰の吸引	基礎と技術
326	010713	和書	493.3	O25	2F 第一閲覧室	呼吸理学療法学	
327	010717	和書	493.3	O32	2F 第一閲覧室	気道・肺疾患の救急初期治療	
328	010719	和書	493.3	O36	1F 書庫	呼吸器疾患のまとめ	
329	010714	和書	493.3	O47	2F 第一閲覧室	呼吸困難とその対策	
330	033001	和書	493.3	O47	1F 書庫	呼吸器病ケーススタディ	56例のPO研修
331	100004088	和書	493.3	O64 [2]	2F 第一閲覧室	入門・呼吸療法	
332	100014936	和書	493.3	O73	2F 第一閲覧室	在宅酸素療法ケアマニュアル	病棟・外来・訪問HOTスタッフ必携
333	010716	和書	493.3	O73	1F 書庫	症例から学ぶ呼吸器病学	Questions & answers
334	010718	和書	493.3	O77	2F 第一閲覧室	臨床呼吸器病学	
335	010715	和書	493.3	O77	2F 第一閲覧室	呼吸器病学	
336	180004908	洋書	493.3	P24 [2]	1F 外国語図書室	Occupational lung disorders	
337	014980	洋書	493.3	P47 [3]	1F 外国語図書室	Intensive and rehabilitative respiratory care	a practical approach to the management of acute and chronic respiratory failure
338	100023919	和書	493.3	Sa16 [2]	2F 第一閲覧室	作業療法士のための呼吸ケアとリハビリテーション	
339	100023455	和書	493.3	Sa22	2F 第一閲覧室	最新呼吸器内科・外科学	
340	010709	和書	493.3	Sa76	2F 第一閲覧室	呼吸器の臨床	
341	100002745	和書	493.3	Se66 [4]	2F 第一閲覧室	呼吸リハビリテーション入門	理学療法士の立場から
342	010708	和書	493.3	Sh19	2F 第一閲覧室	呼吸器の救急治療	
343	100017713	和書	493.3	Sh78	2F 第一閲覧室	呼吸リハビリテーション最前線	
344	100014229	和書	493.3	Sh78	2F 第一閲覧室	極める!!最新呼吸リハビリテーション	今すぐできる実践リハビリテーションとADL/IADLトレーニング
345	100003747	和書	493.3	Sh78	2F 第一閲覧室	呼吸ケア	リハ実践テクニック
346	100007995	和書	493.3	Sh78 2	2F 第一閲覧室	包括的呼吸リハビリテーション	
347	034847	和書	493.3	Sh91	2F 第一閲覧室	呼吸器感染症ハンドブック	病原体から治療まで
348	100003749	和書	493.3	Su49	2F 第一閲覧室	講義録呼吸器学	
349	010707	和書	493.3	Su87 [3]	2F 第一閲覧室	呼吸不全の臨床と生理	
350	036331	和書	493.3	Su87 [5]	2F 第一閲覧室	呼吸管理トレーニング	
351	180005865	和書	493.3	Su95	2F 文庫	危険ないびきが生活習慣病を招く!	
352	036451	和書	493.3	Su96	2F 第一閲覧室	呼吸器疾患の診かた考えかた	
353	036443	和書	493.3	Ta19	2F 第二閲覧室	症例から学ぶ呼吸器感染症	
354	180004392	和書	493.3	Ta33	2F 第一閲覧室	睡眠時呼吸障害	その診断と治療
355	100018460	和書	493.3	Ta33 [2]	2F 第一閲覧室	呼吸・心臓リハビリテーション	カラー写真でわかるリハの根拠と手技のコツ
356	180008977	和書	493.3	Ta33 [2]	2F 第一閲覧室	動画でわかる呼吸リハビリテーション	
357	100019578	和書	493.3	Ta84	2F 第一閲覧室	プライマリ・ケアの現場でもう困らない!!止まらない“せき”の診かた	
358	100003748	和書	493.3	Ta84	2F 第一閲覧室	呼吸運動療法の理論と技術	
359	100018245	和書	493.3	Ta84 [2]	2F 第一閲覧室	呼吸リハビリテーションの理論と技術	
360	025806	和書	493.3	Ta88	2F 第一閲覧室	在宅酸素療法	
361	100008633	和書	493.3	Ta88 [2]	2F 第一閲覧室	呼吸器疾患の運動療法と運動負荷テスト	
362	036016	和書	493.3	Ta88 [2]	2F 第一閲覧室	呼吸不全のリハビリテーション	腹式呼吸から在宅酸素療法まで
363	000120	洋書	493.3	Ta98 [2]	1F 外国語図書室	Manual of respiratory therapy	
364	100020618	和書	493.3	Ts34	2F 第一閲覧室	非がん性呼吸器疾患の緩和ケア	全ての人にエンドオブライフケアの光を!
365	100012725	和書	493.3	U39	2F 第一閲覧室	チームのための実践呼吸リハビリテーション	
366	010720	和書	493.3	U64	1F 書庫	病態からみた今日の呼吸器疾患の治療	
367	033446	和書	493.3	W37	2F 第一閲覧室	呼吸器病	病態生理と臨床
368	100011433	和書	493.3	W46	2F 第一閲覧室	呼吸療法	
369	100007569	和書	493.3	W62		ウエスト呼吸の生理と病態生理	症例から考える統合的アプローチ
370	100013076	和書	493.3	Y15	2F 新書	高気圧酸素療法再考	虚血を救う・治せるものは何か
371	100010699	和書	493.3	Y65	2F 新書	睡眠時無呼吸症候群	
372	100021887	和書	493.3	Y75 [3]	2F 第一閲覧室	すべての医療者のための明日からできる実践吸入指導	指導から支援へ
373	031572	和書	493.3	Z1	2F 第一閲覧室	急性呼吸不全マニュアル	
374	100018645	和書	493.3	Z3	2F 第一閲覧室	全部見えるスーパービジュアル呼吸器疾患	
375	050059	和書	493.3	ジ		紛失遊及追加分	プログラム学習血液ガスと酸塩基平衡の生理学
376	050050	和書	493.3	ス		紛失遊及追加分	呼吸不全の臨床と生理
377	050084	和書	493.3	ハ-4		紛失遊及追加分	急性呼吸不全の臨床
378	036384	和書	493.3	A16	2F 第一閲覧室	喘息の吸入ステロイド療法ハンドブック	
379	036373	和書	493.3	A86	2F 第二閲覧室	気管支喘息へのアプローチ	NIHの新しいガイドラインをも踏まえて
380	036386	和書	493.3	I74	2F 第一閲覧室	喘息教室	
381	010762	和書	493.3	Ko12	2F 第一閲覧室	ぜんそく	専門医による最新治療ガイド
382	026781	和書	493.3	Ko83	2F 第一閲覧室	喘息予防・管理ガイドライン	
383	010757	和書	493.3	Mi77	2F 第一閲覧室	気管支喘息とその周辺	
384	024915	和書	493.3	Mi77 [3]	2F 第一閲覧室	ぜんそくテキスト	発作のしくみと予防・治療
385	180004804	洋書	493.3	Mo44	1F 外国語図書室	Bronchitis	
386	031672	和書	493.3	Mo66	2F 第一閲覧室	やさしい気管支喘息	
387	010759	和書	493.3	N16	1F 書庫	気管支喘息診療ハンドブック	
388	010755	和書	493.3	N18	2F 第一閲覧室	慢性気管支炎	疫学と臨床
389	036317	和書	493.3	N37	2F 第一閲覧室	実地医家のための気管支喘息その診療と管理	
390	010760	和書	493.3	N37	2F 第一閲覧室	重症喘息の治療	
391	010761	和書	493.3	N37	2F 第一閲覧室	職業性喘息の臨床	
392	010756	和書	493.3	N37	1F 書庫	気管支喘息診療の実際	
393	010758	和書	493.3	N45	1F 書庫	ゼンソクよさようなら	最新の知識と治療法のすべて
394	180007925	和書	493.3	N77 10	2F 第一閲覧室	喘息予防・管理ハンドブック	成人編
395	031837	和書	493.3	O27 [5]	2F 第一閲覧室	気管支ファイバースコープ	その手技と所見の解析

396	100021678	和書	493.36	Ta84	2F 第一閲覧室	プライマリケアの現場でもう困らない悩ましい「喘息・COPD・ACO」の診かた	
397	036476	和書	493.36	U75 [2]	2F 第一閲覧室	喘息の診断・管理	NIHガイドライン
398	180005824	和書	493.38	E33	2F 第一閲覧室	ハンドブックよくわかる肺がた	questions & answers
399	100015100	和書	493.38	F67	2F 第一閲覧室	慢性閉塞性肺疾患	抗菌薬だけに頼らない肺炎治療
400	014976	洋書	493.38	H11	1F 外国語図書室	Pulmonary therapy and rehabilitation	principles and practice
401	010765	和書	493.38	H85	2F 第一閲覧室	慢性閉塞性肺疾患	気管支喘息・慢性気管支炎・びまん性肺腫瘍・肺気腫の併発と臨床
402	180002103	和書	493.38	I32	2F 第一閲覧室	肺門部早期肺癌図譜	
403	010749	和書	493.38	I89	1F 書庫	全身性疾患の肺病変	
404	100013169	和書	493.38	Ki12	2F 新書	肺の生活習慣病(COPD)	咳、痰、息切れを疑う
405	100005917	和書	493.38	Ki12	2F 第一閲覧室	LINGによる包括的呼吸ケア	セルフマネジメント力を高める患者教育
406	100019946	和書	493.38	Ko15	2F 第一閲覧室	一歩先のCOPDケア	さあ始めよう、患者のための集学的アプローチ
407	100019085	和書	493.38	Ku51	2F 第一閲覧室	COPDの教科書	呼吸器専門医が教える診療の鉄則
408	100020792	和書	493.38	Ma26	2F 第一閲覧室	誤嚥性肺炎の予防とケア	7つの多面的アプローチをはじめよう
409	016021	和書	493.38	Ma26	2F 第一閲覧室	肺性心	その理論と実際
410	100006591	和書	493.38	Ma87	2F 第一閲覧室	ガイドライン物語	肺炎ガイドラインはいつかして作成されたか
411	180004805	洋書	493.38	Mo44	1F 外国語図書室	Atlas of pulmonary pathology	
412	100024438	和書	493.38	Mo51	2F 第一閲覧室	誤嚥性肺炎たたいま回診中!	
413	180012742	和書	493.38	N77	2F 第一閲覧室	COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン	
414	100024156	和書	493.38	O92	2F 第一閲覧室	終末期の肺炎	
415	008619	洋書	493.38	R86 [3]	1F 外国語図書室	Manual of pulmonary function testing	
416	100013460	和書	493.38	Su49	2F 第一閲覧室	よくわかる慢性閉塞性肺疾患の基本としくみ	
417	100024900	和書	493.38	Ta33	2F 第一閲覧室	誤嚥性肺炎の包括的アプローチ	診断・治療から、栄養管理・呼吸リハ・嚥下リハ・口腔ケアまで
418	010747	和書	493.38	Ta64	1F 書庫	自然気胸	肺のバンク 45の質問
419	100014005	和書	493.38	Ta95	2F 第一閲覧室	COPD	こう診る・こう考える
420	010745	和書	493.38	W62	2F 第一閲覧室	呼吸の病態生理	
421	050071	和書	493.38	ス	紛失および追加	肺炎患者とその診断のポイント	
422	100024601	和書	493.6	A26	2F 第一閲覧室	運動機能障害の理学療法	運動連鎖に基づく評価・治療
423	100022834	和書	493.6	A29	2F 第一閲覧室	五十肩の評価と運動療法	あなたも必ず治せるようになる!
424	022978	和書	493.6	A44	2F 第一閲覧室	ALSマニュアル	ALSと共に生きる 筋萎縮性側索硬化症
425	180009979	和書	493.6	A62	2F 新書	腰痛・肩こりの科学	原因から治し方・防ぎ方まで
426	100008588	和書	493.6	B25	2F 第一閲覧室	骨粗鬆症	診断・予防・治療ガイド
427	100017107	和書	493.6	B74	2F 第一閲覧室	英国医師会腰痛・頸部痛ガイド	解剖、診断、治療、そして生活指導と運動療法の詳細
428	015999	和書	493.6	C12	2F 第一閲覧室	軟部組織の痛みと機能障害	
429	023458	和書	493.6	C12	2F 第一閲覧室	正しい腰痛のなおしかた	カリエ博士の腰痛ガイド
430	100021663	和書	493.6	C76	2F 第一閲覧室	クラークソン筋・骨格系評価法ハンドブック	関節運動と筋機能テスト
431	100010117	洋書	493.6	C76 [2]	1F 外国語図書室	Musculoskeletal assessment	joint range of motion and manual muscle strength
432	100007717	和書	493.6	C95	2F 第一閲覧室	線維筋痛症	こうすれば楽になる 全身の痛みに対する生活と心のコントロール
433	016063	和書	493.6	D82	2F 第一閲覧室	リウマチのリハビリテーション	
434	100012300	和書	493.6	E59	2F 第一閲覧室	最新腰痛症ハンドブック	腰椎椎間板ヘルニアからスポーツ事故の治療まで
435	100008442	和書	493.6	E59	2F 第一閲覧室	骨粗鬆症のすべて	
436	016061	和書	493.6	E96	2F 第一閲覧室	いまからでも治る防げる骨粗鬆症	シルバライフを骨折・寝たきり・ボケなしで
437	007858	和書	493.6	F46	2F 第一閲覧室	セラピストのためのポテトメカニクス	腰痛の予防と治療の指針
438	180000815	洋書	493.6	F47	1F 外国語図書室	Systematic musculoskeletal examination	including manual medicine diagnostic techniques
439	014297	和書	493.6	F56	1F 書庫	足診療マニュアル	
440	100018801	洋書	493.6	F76	1F 外国語図書室	Skin taping	skin kinesiology and its clinical application
441	100003375	和書	493.6	F79	2F 第一閲覧室	骨粗鬆症の診断と鑑別	骨密度測定と脊椎画像診断
442	180011934	和書	493.6	G32	2F 第一閲覧室	ALSマニュアル決定版!	
443	180004711	洋書	493.6	H32	1F 外国語図書室	Lumbar disc disease	
444	049011	和書	493.6	H33	2F 第一閲覧室	筋直性ジストロフィー	患者と家族のためのガイドブック
445	180008800	洋書	493.6	H33	1F 外国語図書室	Clinical rheumatology illustrated	
446	180010446	和書	493.6	H36	小山文庫	腰痛は「怒り」である	痛みと心の不思議な関係
447	016051	和書	493.6	H39	2F 第一閲覧室	腰痛	その診断と治療のすべて
448	100022345	和書	493.6	H48	2F 第一閲覧室	運動器疾患の機能解剖学に基づく評価と解釈	
449	100000296	和書	493.6	H48	2F 新書	骨の健康学	
450	100015482	和書	493.6	H67	2F 第一閲覧室	運動器疾患の治療	整形外科・現代鍼灸・伝統鍼灸
451	034318	和書	493.6	H85	2F 第一閲覧室	慢性関節リウマチと長期療法	より長きquality of lifeのために
452	016053	和書	493.6	H85	2F 第一閲覧室	骨・関節疾患	
453	016076	和書	493.6	H85	1F 書庫	骨・関節疾患	
454	100003732	和書	493.6	H86		図解四版と脊椎の診かた	
455	100007922	和書	493.72	A49	2F 第一閲覧室	精神障害リハビリテーション学	
456	021687	和書	493.72	A49	2F 第一閲覧室	精神科リハビリテーション	
457	100020585	和書	493.72	A53	2F 第一閲覧室	こころの病を診るといって	私の伝えたい精神科診療の基本
458	100019141	和書	493.72	A62	2F 第一閲覧室	介護老人保健施設の作業療法	
459	100004758	和書	493.72	A81	2F 第一閲覧室	精神疾患の理解と精神科作業療法	
460	100015026	和書	493.72	A81 [2]	2F 第一閲覧室	精神疾患の理解と精神科作業療法	
461	008705	和書	493.72	A82	1F 書庫	生きている悩みを診る悩み	精神科診療日記
462	015825	和書	493.72	A85	2F 第一閲覧室	「甘え」理論と精神療法	臨床における他者理解
463	100007781	和書	493.72	A86 [2]	2F 第一閲覧室	老年期の作業療法	
464	100016616	和書	493.72	A87	2F 第一閲覧室	作業処方	精神科作業療法
465	100010888	和書	493.72	A87	2F 第一閲覧室	生かされる癒しの風景	園芸療法からミユリセラピーへ
466	020990	和書	493.72	A87	2F 第一閲覧室	精神科デイケアの実践的研究	
467	014939	洋書	493.72	A96	1F 外国語図書室	Therapeutic recreation processes and techniques	
468	025014	和書	493.72	B17	2F 第一閲覧室	日常臨床における向精神薬の使い方	283の質問と解答
469	040282	和書	493.72	B19 [2]	2F 第一閲覧室	発達障害の評価と治療	小児の作業療法
470	100018376	和書	493.72	B23	2F 第一閲覧室	DSM-5ケースファイル	
471	024085	和書	493.72	B33 1	1F 書庫	わかりやすいSSTステップガイド	分裂病をもつ人の援助に生かす
472	100005345	洋書	493.72	B98 [2]	1F 外国語図書室	Occupational therapy with elders	strategies for the COTA
473	008570	洋書	493.72	C [2]	1F 外国語図書室	Stat	social techniques in assertiveness training for women in the health professions
474	180011516	和書	493.72	C15	2F 第一閲覧室	作業ができるということ	
475	180007919	和書	493.72	C18	2F 第一閲覧室	精神科面接マニュアル	
476	100005925	洋書	493.72	C25 [5]	1F 外国語図書室	Occupational therapy for children	
477	011923	和書	493.72	C33	1F 書庫	ザリヴァン治療技法入門	
478	008568	洋書	493.72	C38 [2]	1F 外国語図書室	Stat	social techniques in assertiveness training for women in the health professions
479	100010139	洋書	493.72	C58 [3]	1F 外国語図書室	Occupational therapy	performance, participation, and well-being
480	008761	和書	493.72	C76	1F 書庫	精神医学と社会療法	
481	100020854	和書	493.72	C78	2F 第一閲覧室	高次脳機能障害領域の作業療法	プログラム立案のポイント
482	100017640	和書	493.72	C78	2F 第一閲覧室	日常生活活動の作業療法	
483	100016654	和書	493.72	C78	2F 第一閲覧室	福祉用具・住環境整備の作業療法	
484	100016649	和書	493.72	C78	2F 第一閲覧室	認知症のある人への作業療法	
485	100013929	和書	493.72	C78	2F 第一閲覧室	発達障害領域の作業療法	
486	100013402	和書	493.72	C78	2F 第一閲覧室	精神障害領域の作業療法	
487	100013403	和書	493.72	C78	2F 第一閲覧室	高齢期障害領域の作業療法	
488	100013401	和書	493.72	C78	2F 第一閲覧室	身体障害領域の作業療法	
489	100019664	和書	493.72	C78 [2]	2F 第一閲覧室	身体領域の作業療法	プログラム立案のポイント
490	100003403	洋書	493.72	C87	1F 外国語図書室	Qualitative research in occupational therapy	strategies and experiences
491	100013294	洋書	493.72	D53 [3]	1F 外国語図書室	The pelvic girdle	an approach to the examination and treatment of the lumbar-pelvic-hip region
492	180008848	洋書	493.72	D54 [5]	1F 外国語図書室	DeJong's The neurologic examination	
493	017521	和書	493.72	D56	2F 第一閲覧室	目でみる神経検査法の実践	
494	015917	和書	493.72	D82	2F 第一閲覧室	精神機能評価	

495	017702	和書	493.72	D83	1F 書庫	方法としての面接	臨床家のために
496	015914	和書	493.72	D83	1F 書庫	精神療法の臨床と指導	
497	100017406	和書	493.72	D87	2F 第一閲覧室	臨床が変わる!PT・OTのための認知行動療法入門	
498	033413	和書	493.72	D93	1F 書庫	精神科decision making	
499	015699	和書	493.72	E31	2F 第一閲覧室	エガース・片麻痺の作業療法	Bobath理論による
500	100023914	和書	493.72	E33	2F 第一閲覧室	ケースでわかる精神科治療ガイドラインのトリセツ	
501	022221	和書	493.72	E42	2F 第一閲覧室	精神科リハビリテーション実践ガイド	
502	100003005	和書	493.72	E59	2F 第一閲覧室	組みひも・作業療法への適用法	治療・援助・評価の手引き
503	180007028	和書	493.72	E59	2F 第一閲覧室	専門医が語るよくわかるころの病氣	
504	008767	和書	493.72	E63	1F 書庫	興味ある精神症状群	
505	034190	和書	493.72	E67	1F 書庫	回復と成長をめざして	地域の中での作業療法
506	180006538	洋書	493.72	E85	1F 外国語図書室	Occupational therapy education in europe	an exploration
507	015924	和書	493.72	EGA ii		エガース・片麻痺の作業療法	Bobath理論による
508	100008175	和書	493.72	F24	2F 第一閲覧室	フィドラーのアクティビティ論	現実とシンボル
509	016080	和書	493.72	F24	2F 第一閲覧室	精神科のプログラム開発	リハビリテーションのすすめ方
510	180007519	和書	493.72	F24	2F 第一閲覧室	精神医学的作業療法	
511	100018379	和書	493.72	F27	2F 第一閲覧室	DSM-5鑑別診断ハンドブック	
512	100003417	和書	493.72	F43		DSM-IV-TRケーススタディ	鑑別診断のための臨床指針
513	015912	和書	493.72	F43	1F 書庫	精神科鑑別治療学	
514	015680	和書	493.72	F46	1F 書庫	認知療法入門	
515	017511	和書	493.72	F48	1F 書庫	積極的心理療法	その理論と技法
516	100017828	和書	493.72	F62	2F 新書	精神科のヒミツ	クスリ、報酬、診断書
517	180008404	和書	493.72	F62	2F 第一閲覧室	精神科医はどのようにころを読むのか	
518	180008403	和書	493.72	F62	2F 第一閲覧室	精神科医はどのように話を聴くのか	
519	180008237	和書	493.72	F62	2F 第一閲覧室	現場に活かす精神科チーム連携の実際	精神科医、心理士、精神科ソーシャルワーカーのより良い連携を求めて
520	015911	和書	493.72	F64	1F 書庫	精神科臨床における症例からの学び方	
521	180008107	和書	493.72	F64	2F 第一閲覧室	精神療法とエロス	
522	100021668	和書	493.72	F67	2F 第一閲覧室	作業療法とドライブマネジメント	
523	180008342	和書	493.72	F74	2F 第一閲覧室	精神疾患とNIRS	光トポグラフィ検査による脳機能イメージング
524	020691	和書	493.72	F74	2F 第一閲覧室	家族療法の面接室から	不登校・拒食過食・無気力・職場不適應からの脱出
525	023026	和書	493.72	F82	2F 第一閲覧室	事例で学ぶSST	精神科領域における社会生活技能訓練の実際
526	180004296	和書	493.72	F84	2F 第一閲覧室	境界例の精神療法	
527	100015172	和書	493.72	F93	2F 第一閲覧室	つくる・あそぶを治療にいかす作業活動実習マニュアル	
528	100004409	和書	493.72	F93 1	2F 第一閲覧室	作業療法のとらえかた	
529	018143	和書	493.72	G48	1F 書庫	人生はセルフ・コントロール	落ちこまないための現実療法
530	020322	和書	493.72	G48	1F 書庫	現実療法	精神医学への新しいアプローチ
531	180004915	洋書	493.72	G48	1F 外国語図書室	Gestaltwandel psychiatrischer Krankheitsbilder	
532	008759	和書	493.72	G51	1F 書庫	精神科コンサルテーションの技術	
533	180008297	洋書	493.72	G61	1F 外国語図書室	Immunophilins in the brain	FBP ligands - novel strategies for the treatment of neurodegenerative disorders
534	100012297	和書	493.72	G69 1	1F 書庫	正しい診断と処方求めて	

資料12

藍野大学大学院 健康科学研究科委員会規程（案）

[2024年4月1日制定]

（目的）

第1条 この規程は、藍野大学大学院学則第38条（以下「学則」という。）の規定に基づき、藍野大学大学院健康科学研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）の議事及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（構成）

第2条 研究科委員会は、学則第38条に規定する者をもって構成し、健康科学研究科長（以下「研究科長」という。）がこれを召集し、議長となる。ただし、研究指導教員のみで構成する臨時の研究科委員会を開催することがある。

2 研究科長に事故あるときは、研究科長が予め指名した者がこれに代わるものとする。

（開催通知）

第3条 研究科委員会を招集するに当たっては、予め審議事項等を記載した書面をもってこれを行う。

（定足数）

第4条 研究科委員会は、構成員（休職中及び出張中の者を除く。）の3分2以上の出席がなければこれを開くことができない。ただし、別段の定めがあるときはこの限りでない。

（審議事項）

第5条 研究科委員会は、学則第39条に規定する事項について審議する他、その含まれる事項につき大学院及び学部等の各種委員会に審議を付託することができる。

2 学則の変更並びに人事及び予算に関する審議事項については、必要に応じ学長に具申し理事会に諮るものとする。

（議事及び議決）

第6条 研究科委員会の議事は、出席者の過半数をもって議決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（意見の聴取）

第7条 議長が必要と認めるときは、構成員以外の者を出席させて説明又は意見を聴くことができる。

（議事録の作成）

第8条 研究科委員会の議事については、議事録を作成し、次回の研究科委員会において確認するものとする。

(事務)

第9条 研究科委員会に関する事務は、学生支援グループにおいて処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、研究科委員会の議事及び運営に関し必要な事項は、研究科委員会の議を経て研究科長が別に定める。

(規程の改廃)

第11条 この規程の改廃は、運営会議の議を経て行う。

附 則

この規程は、2024年4月1日から施行する。

市民公開講座

年度	講座名称	日程	講師	参加者数
2011	身体と心の健康のために② ー脳故障とその介護ー			48
	1. 脳故障 ー高次脳機能障害についてー	9月17日(土)	林部美紀	
	2. 自宅で役立つ介護術		石橋文枝・長岡恵美子	
	身体と心の健康のために① ー心も体もリフレッシュー			36
1. ストレスと病気	10月8日(土)	足利学・飯田英晴		
2. 健康維持のためのストレッチ		植田昌二・杉本明文		
2012	健康で元気な毎日のために			
	ストレスと病気 ーストレス対処とリラックス体操ー	9月1日(土)	足利学・飯田英晴・佐伯武士	39
	ワンダフルエイジング ー心身ともに健康な毎日をおくるためにー	9月15日(土)	飯田英晴・林部美紀・山科吉弘	33
2013	元気な毎日のために、「備えること」の大切さ			
	お父さんのための前立腺がんのお話 最近増えている前立腺がん ー前立腺がん検診カー あなたのために、大切な人に、予防運動 ー無理のない運動ー	9月14日(土)	水谷陽一	37
	1. 転ばないからだづくり ～楽しくできる足指の運動～	10月5日(土)	本多容子	
	2. 介護する前に自分の体づくりもしませんか		玉地雅浩	
2014	もっと健康に アクティブな備え			59
	1. お父さんのための前立腺がんのお話 ー最近増えている前立腺がんー	9月20日(土)	水谷陽一	
	2. 毎日の健康法 自宅でできる「むくみ対策」 ーリンパドレナージュについてー		熊田 仁	
2015	取り戻そう アクティブな生活			30
	1. グリーフケア ー家族を亡くした悲しみのケアー	9月12日(土)	飯田英晴	
	2. バリアフリーのまちづくり		長辻永喜	
知っておきたい肩関節と五十肩	9月26日(土)	熊田 仁	32	
2016	家族みんなで、明るくすこやかに！			
	1. 産後うつ病と社会的支援	9月10日(土)	齋藤 祥乃	17
	2. 育児中のストレス		飯田 英晴	17
	すこやかな毎日、いつまでも！			
1. 認知症の診断と治療：最近の進歩	9月24日(土)	武田 雅俊	170	
2. 認知症予防～今から始めてみませんか？ 脳と身体を使ったエクササイズ～		玉地 雅浩、梶本 浩之	33	
2017	ずっと、いきいきと暮らすための知識～あなたは大丈夫ですか？			
	1. 認知症者の行動を理解し、予防するための知識	9月2日(土)	酒井 浩	115
	2. 認知症予防～今から始めてみませんか？ 脳と身体を使ったエクササイズ～		玉地 雅浩、梶本浩之	40
認知症予防と認知予備力	9月16日(土)	武田 雅俊	99	
2018	ずっと、いきいきと暮らすための知識			
	1. 認知症者の行動を理解し、予防するための知識	9月1日(土)	酒井 浩	221
	2. 女性の排尿トラブル		水谷 陽一	171
認知症予防～今から始めてみませんか？ 脳と身体を使ったエクササイズ～	9月8日(土)	玉地 雅浩、梶本浩之	67	
2019	健康寿命をのばして、いきいきと ～超高齢化社会を支える住まいと暮らし～ 歳を重ねてもその人らしく暮らすコツ～	9月1日(土)	高齢者住宅経営者連絡協議会会長 森川悦明、 酒井 浩	92
	1. 認知症予防 ～始めよう！脳と身体を使った エクササイズ～	9月8日(土)	白井 雅子	60
	2. 男性の排尿トラブル		水谷 陽一	42
2020	新型コロナウイルス感染症の影響により、実施なし			
2021	新型コロナウイルス感染症の影響により、実施なし			
2022	災害に備える	9月1日(土)	西上 あゆみ、青山 宏樹	34
	加齢に伴うこころの諸問題①	2月11日(土)	飯田 英晴	36
	加齢に伴うこころの諸問題②	2月18日(土)	飯田 英晴	22